

2020 年度

地方創生☆政策アイデアコンテスト  
受賞チームアイデア実現支援のための  
フォローアップ報告書

令和 3 年 3 月

一般社団法人 オープンガバナンスネットワーク  
フォローアップチーム



# 報告書サマリー

## 事業の概要と目的

本事業は、地方創生☆政策アイデアコンテスト（以下、コンテスト）受賞チームの受賞後の活動をサポートし、アイデアの実現や継続のための伴走役として貢献することを目的としている。2020年度コンテスト受賞チームのうち5チームと、継続事業として2019年度コンテストの受賞チームのうち2チームの計7チームをフォローアップ対象チームとした。

フォローアップの実施にあたっては、

- (1) 受賞後の各チームのプロジェクトの課題および現状を、ヒアリング等により明らかにした上で、
- (2) 必要に応じて各チームの今後の発展に求められる知見を有すると考えられる専門家を招いた意見交換会を実施し、アイデア実現・継続に向けたアドバイスをを行った。
- (3) また、チーム向けチャットサービスを活用して、フォローアップ対象チームがフォローアップチーム等と相談しやすい環境を構築した。

## 結果

本事業の対象とした各チームの取り組み状況と本事業の概要、今後の予定は以下の通り。

### 2020年度受賞チーム

#### [1] 島根県松江市・古民家上手プロジェクトチーム

- ・ 島根大学に在籍する外国人留学生の孤立解消や学生寮不足の解消、一方で増加する空き家の有効活用を目的として、2017年より地域の空き家を「混住シェアハウス」として運営し、地域の拠点創出に取り組んでいる
- ・ 意見交換会を実施し、今後の継続的なプロジェクトの展開に向けた産学官の連携体制の構築のための課題や取り組み方法などを、意見交換会を通じて検討した
- ・ 今後は、大学および地元自治体との連携を進め、産学官コンソーシアムの形成を目指す。中でも自治体との効果的な連携がカギとなる

#### [2] 鹿児島県指宿市・TOMOSHIBI

- ・ 高压洗浄機を用いて街なかの汚れた民家などの壁に絵を描くアート活動を展開する
- ・ 意見交換会に専門家を招請し、プロジェクトをスケールさせるために必要なコンセプトステートメントの作成、教育現場での活動の設計、住民参加の方法などを検討した
- ・ 今後は、地域の中学校や公共施設での教育とアートの組み合わせによる活動の展開やアートコンペティションへの応募を目指す

#### [3] 秋田県・中小企業政策研究会ビジネスモデルカフェ

- ・ 秋田県の観光資源を活用したオンラインスポーツツーリズムの形として、エアロバイクの動きと観光地での実写映像とを連動させた仮想空間ライブマラソンを提案
- ・ 意見交換会を実施し、アイデアの実現の事業化にあたっての必要な検討事項の整理およびビジネスプランの精緻化に向けた検討を行った
- ・ 今後はフィットネスバイクを扱っている小売業者へのプレゼンテーションを当面のマイルストーンに据えて、プロジェクトのビジネス展開に向けた提案資料の準備に取り組む

## 2020年度受賞チーム（続）

### [4] 福島県・加登屋酒店&しんきん地方創生サポーターズ

- 人口減や高齢化が進むなか、オンラインで消費を促す仕組みを地方発で作りと、外出が難しい都市部の参加者とともに地方の魅力を体験できるオンラインツーリズムを提案
- オンラインイベントの規模拡大や運営の改善のため、オンラインイベントの企画運営に詳しい専門家を交えたイベント企画のための意見交換会や講習会を実施した
- 今後はオンラインイベントの定期開催やコンテンツの拡充、横展開のための協業者の確保を目指す

### [5] 長野県・諏訪市産業連携推進室

- 新型コロナウイルス感染症対策のため開催を見合わせている恒例の日本酒蔵巡りイベントの代替として、諏訪市内の複数の酒造会社が参加する動画プロジェクトおよびオンライン利酒会を始めた
- 意見交換会を実施し、オンラインイベントの拡充や海外向け販売の方策を検討した
- 今後はイベントの主催者である地元商工会と市役所との連携を強化し、オンラインイベントや通信販売などのプロジェクト展開を検討する

## 2019年度受賞チーム

### [6] 石川県能登町・能登町×北陸財務局×興能信用金庫チーム

- 地域課題を解決する担い手の育成やサテライトオフィスなどの企業の誘致に向けて、スタディツアーの実施や、企業の課題解決型人材研修の誘致と地元の若者の参加、企業のサテライトオフィスやリモートワーカーの誘致を目標とする
- 本年度は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、特にワーケーションの誘致にも取り組んでいる
- 今後は、地元住民を交えてワーケーション事業の具体的な施策を検討する

### [7] 徳島県那賀町 徳島県地方創生局地域振興課

- 町内農業経営者の高齢化が進む中で、那賀町の特産花きのコワニーを徳島独特の「阿波藍」で染めて、花き市場での持続的な競争優位を図り生産者の所得向上を目指す
- 本年度から、那賀町と徳島大学、民間企業との共同研究を開始し、藍染コワニーの試作を繰り返し実施するとともに、花き小売事業者や市場関係者への聞き取りなどを通じた市場調査を行なっている
- 今後は、本年度の共同研究の成果を徳島大学の記者発表などを通じて広めるとともに、市場開拓のための施策を検討する

## 考察

本事業では各チームのプロジェクトの進捗状況や課題が多岐にわたることから、各チームの状況に応じて、事業内容を検討し実施した。中長期的なプロジェクト運営のためのフォローアップを短期的に評価することは難しいものの、以下の観点が課題と考えられる。

- チーム体制の強化と連携・協力先の確保
  - 多くのチームメンバーは本職の勤務時間外でプロジェクトを担っていることから、アイデア実現や継続にあたっては、それぞれのメンバーが果たす役割の明確化やチ

ームガバナンスの強化が求められるとともに、チーム外で連携・協力できる団体・個人などを有機的に繋げる必要がある。

- 中長期的な運営のために法人化などが必要となるケースも見られるが、チームメンバーが必ずしも活動の事業化に関する知識や経験を有していないことから、適切な知見を有する専門家の紹介などの支援が求められる。
- 住民参加の仕掛けづくり
  - 多くのプロジェクトは地域住民の参加を前提としていて、もしくは目標に掲げており、それを可能にする仕組みや仕掛けを考えていくことが必要である。
  - プロジェクトによっては、単に住民を巻き込むというだけでなく、住民の意識を変容させ、住民が地域で主体的に活動するようになることを重要視している。そのため仕組みや仕掛けづくりが必要である。
- 資金調達のノウハウの提供
  - 寄付やクラウドファンディング、収益化などの多様な選択肢から各プロジェクトに適した方法を選択することが必要と考えられるが、資金調達の方法に関する知見が不足している。
- データ活用（継続的な収集・適切な分析）
  - 活動の効果（アウトプット・アウトカム・社会に与えるインパクトなど）やプロジェクトを取り巻く社会的状況を随時評価するため、多様なデータ（アンケートや聞き取り調査、統計データの活用などの質的・量的の両データ、記録映像なども含む）の継続的な収集およびRESASや統計ソフトなどを活用した適切な分析が必要である。
- プロジェクトの柔軟性
  - 場合によっては、地域課題の文脈や情勢等に応じたプロジェクト内容の変更や修正などが必要となるが、そのような状況においてもチームが効果的に活動を継続するために、予めプロジェクトの根幹となるコンセプトを明確にしたうえで、メンバー間や協力者との間で共通理解を構築しておくことが重要である。
- 広報活動
  - 連携・協力先の確保や住民参加、資金調達といった活動推進にあたっての様々な課題を克服し、プロジェクトを軌道に乗せるためには、継続的な発信力が必要である。まず、データの収集および分析によって明らかになった活動の成果を、正確かつ効果的な方法で可視化することが必要である。また、コンペティションへの出展やプレリリースでの発信、アプリケーションの公開、ソーシャルメディアを活用した自主的な情報発信、活動拠点となっている地域のローカルメディアとの連携などの多様な手段を適切に使い分けて公表することが求められる。
- 継続的なフォローアップ
  - 今回は短期間でのチームの状況に応じた第一段階のフォローアップであったが、この経験から、民間のスタートアップと同じく、官と民の中間的位置づけのプロジェクト（コモンズ）についてもインキュベーター的機能を提供する新たなサービスが必要と考える。その際、①企業的に通常の市場で育つ可能性のあるもの、②官にも民にも属さない中間項的なもの（コモンズ）、③アイデアは民間からのものでも行政が手がけてよいものの分類をしておく必要がある。また、プロジェクトの進行状況の程度もフォローアップ方策に加味する必要がある。



# 目次

<b>1</b>	<b>本事業について.....</b>	<b>8</b>
1.1	事業の目的.....	8
1.2	フォローアップ事業対象チーム.....	8
1.4	事業の実施体制.....	10
1.5	事業の実施方法.....	10
1.6	事業のスケジュール.....	13
<b>2</b>	<b>実施報告.....</b>	<b>14</b>
2.1	[1] 島根県松江市 古民家上手プロジェクトチーム.....	14
2.1.1	支援対象チーム.....	14
2.1.2	RESAS の活用状況.....	14
2.1.3	実施内容.....	15
2.1.3.1	ヒアリングと意見交換会の概要.....	15
2.1.3.2	ヒアリング兼意見交換会概要.....	15
2.1.4	今後のフォローアップの方針.....	18
2.2	[2] 鹿児島県指宿市 TOMOSHIBI.....	19
2.2.1	支援対象チーム.....	19
2.2.2	RESAS の活用状況.....	19
2.2.3	実施内容.....	20
2.2.3.1	ヒアリングと意見交換会の概要.....	20
2.2.3.2	ヒアリング兼第1回意見交換会概要（2021年1月13日 18:00-20:00）.....	21
2.2.3.3	第2回意見交換会概要（2021年1月22日 18:00-20:00）.....	22
2.2.3.4	第3回意見交換会概要（2021年2月5日 18:00-19:30）.....	25
2.2.3.5	第4回意見交換会概要（2021年2月19日 18:00-19:30）.....	28
2.2.3.6	第5回意見交換会概要（2021年3月4日 18:00-19:30）.....	33
2.2.4	今後のフォローアップの方針.....	38
2.3	[3] 秋田県：中小企業政策研究会ビジネスモデルカフェ.....	39
2.3.1	支援対象チーム.....	39
2.3.2	RESAS の活用状況.....	39
2.3.3	実施内容.....	40
2.3.3.1	ヒアリングと意見交換会の概要.....	40
2.3.3.2	第1回秋田県ヒアリング兼意見交換会概要（2021年2月17日20:00-21:00）.....	40
2.3.3.3	第2回秋田県意見交換会概要（2021年3月3日 20:00-21:00）.....	41
2.3.4	今後のフォローアップの方針.....	43
2.4	[4] 福島県：加登屋酒店&しんきん地方創生サポーターズ.....	44
2.4.1	支援対象チーム.....	44

2.4.2	RESAS の活用状況 .....	44
2.4.3	実施内容 .....	45
2.4.3.1	ヒアリングと意見交換会の概要 .....	45
2.6.3.2	ヒアリング兼第1回意見交換会概要（2021年1月21日16:30-17:30） .....	45
2.6.3.3	第2回意見交換会概要（2021年2月3日17:00-19:00） .....	47
2.4.4	今後のフォローアップの方針 .....	48
2.5	<b>[5] 長野県：諏訪市産業連携推進室</b> .....	49
2.5.1	支援対象チーム .....	49
2.5.2	RESAS の活用状況 .....	49
2.5.3	実施内容 .....	50
2.5.3.1	ヒアリングと意見交換会の概要 .....	50
2.7.3.2	ヒアリング兼意見交換会概要（2021年2月5日13:00-14:00） .....	50
2.5.4	今後のフォローアップの方針 .....	51
2.6	<b>[6] 石川県能登町：能登町×北陸財務局×興能信用金庫チーム（2019年度受賞）</b> .....	52
2.6.1	支援対象チーム .....	52
2.6.2	RESAS の活用状況 .....	52
2.6.3	実施内容 .....	53
2.6.3.1	意見交換会の概要 .....	53
2.8.3.2	第1回意見交換会概要（2020年12月8日15:00-16:15） .....	53
2.6.4	今後のフォローアップの方針 .....	55
2.7	<b>[7] 徳島県那賀町：徳島県地方創生局地域振興課（2019年度受賞）</b> .....	56
2.7.1	支援対象チーム .....	56
2.7.2	RESAS の活用状況 .....	56
2.7.3	実施内容 .....	57
2.7.3.1	意見交換会の概要 .....	57
2.9.3.2	第1回意見交換会概要（2020年11月28日14:00-15:30） .....	57
2.7.4	今後のフォローアップの方針 .....	60
<b>3</b>	<b>考察・まとめ .....</b>	<b>61</b>



## 図表一覧

表 1	本事業のフォローアップ支援対象チーム	7
表 2	事業スケジュール	12
表 3	島根県ヒアリング兼意見交換会概要	14
表 4	鹿児島県ヒアリングと意見交換会の概要	19
表 5	秋田県ヒアリング兼意見交換会概要	40
表 6	福島県ヒアリングと意見交換会概要	46
表 7	長野県諏訪市ヒアリング兼意見交換会概要	51
表 8	石川県能登町ヒアリング兼意見交換会概要	54
表 9	徳島県那賀町ヒアリング兼意見交換会概要	58
表 10	継続的なフォローアップのための分類例	63
図 1	フォローアップ対象チームとその地域	8
図 2	RESAS を活用した現状把握（コンテスト時の発表資料より）	13
図 3	産学官連携コンソーシアムの構想イメージ（上）ビジネスモデルイメージ（下）	15
図 4	「混住シェアハウス」で行った多国籍料理教室の様子	15
図 5	RESAS の活用状況（コンテスト時の発表資料より）	18
図 6	TOMOSHIBI の作品例 黒ずんだ壁をキャンバスにして汚れを落とすことで絵を描き出す	20
図 7	RESAS および V-RESAS の活用状況（コンテスト時の発表資料より）	39
図 8	RESAS および V-RESAS の活用状況（コンテスト時の発表資料より）	45
図 9	オンライン利酒会の様子（コンテスト時の発表資料より）	47
図 10	RESAS および V-RESAS の活用状況（コンテスト時の発表資料より）	50
図 11	RESAS の活用状況（コンテスト時の発表資料より）	53
図 12	RESAS の活用状況（コンテスト時の発表資料より）	57
図 13	共同研究の成果の一部（藍染の染料調合実験の様子）	59

# 1 本事業について

## 1.1 事業の目的

本事業は、内閣府地方創生推進室で毎年開催する「地方創生☆政策アイデアコンテスト」での受賞チームが、コンテストの終了後にアイデアを実現し、継続・発展できるように支援をしていくことを目的としている。ヒアリングや意見交換会を通じて、アイデア実現・継続のために必要な課題の洗い出しや、解決策の検討などを実施した。

## 1.2 フォローアップ事業対象チーム

本事業でフォローアップを実施する対象チームは、コンテスト主催者との協議のうえ、表1および図1に示す7チームを対象とした。2020年度コンテストでの受賞5チームに加えて、昨年度の同事業でフォローアップの対象とした受賞チームのうち2チームについても継続してフォローアップの対象とした。

表 1 本事業のフォローアップ支援対象チーム

チーム番号	コンテスト受賞	自治体名	チーム名 (コンテスト時)	アイデア名 (コンテスト時)	参加者氏名 (コンテスト時)
[1]	コンテスト2020「地方創生担当大臣賞（大学生以上一般の部）」	島根県 松江市	古民家上手プロジェクトチーム	空き家が繋ぐ人と未来 空き家を利用した共生 社会構築への挑戦 島根県松江市持田町の 事例を踏まえて	橋本友太 佐藤和輝 青晴海
[2]	コンテスト2020「地方創生担当大臣賞（地方公共団体の部）」	鹿児島県 指宿市	TOMOSHIBI	artのある街計画	瀬戸口晴彦 元吉遼平
[3]	コンテスト2020「優秀賞（大学生以上一般の部）」	秋田県	中小企業政策研究会ビジネスモデルカフェ	エアロバイクで仮想空間 ライブマラソン!	江口健介 木下忠北 濱慶浅野 俊太小薄 太志酒井 利之 地引智美
[4]	コンテスト2020「優秀賞（大学生以上一般の部）」	福島県	加登屋酒店&しんきん地方創生サポーターズ	酒屋のおばちゃんとする オンラインツアーの支援と実践	片岡智絵 井上有弘 平野義浩 新井稲二 石井イツ子
[5]	コンテスト2020「ピザ・ワールドワイド賞、（地方公共団体の部）」	長野県	諏訪市産業連携推進室	コロナに打ち克つ！頑 張る諏訪酒蔵のPR	茅野光徳 宮坂ちとせ 横田真理華

表 1 本事業のフォローアップ支援対象チーム（続）

チーム番号	コンテスト受賞	自治体名	チーム名 (コンテスト時)	アイデア名 (コンテスト時)	参加者氏名 (コンテスト時)
[6]	コンテスト2019「優秀賞」	石川県能登町	能登町×北陸財務局×興能信用金庫チーム	WAKUWAKUのーとコンソーシアム	灰谷貴光 小林利臣 田代克弘 松本好裕 豊若裕治 蛸島慎司
[7]	コンテスト2019「優秀賞」	徳島県那賀町	徳島県地方創生局地域振興課	藍染めと花のコラボレーションによる地域農業の活性化	南賀銀次

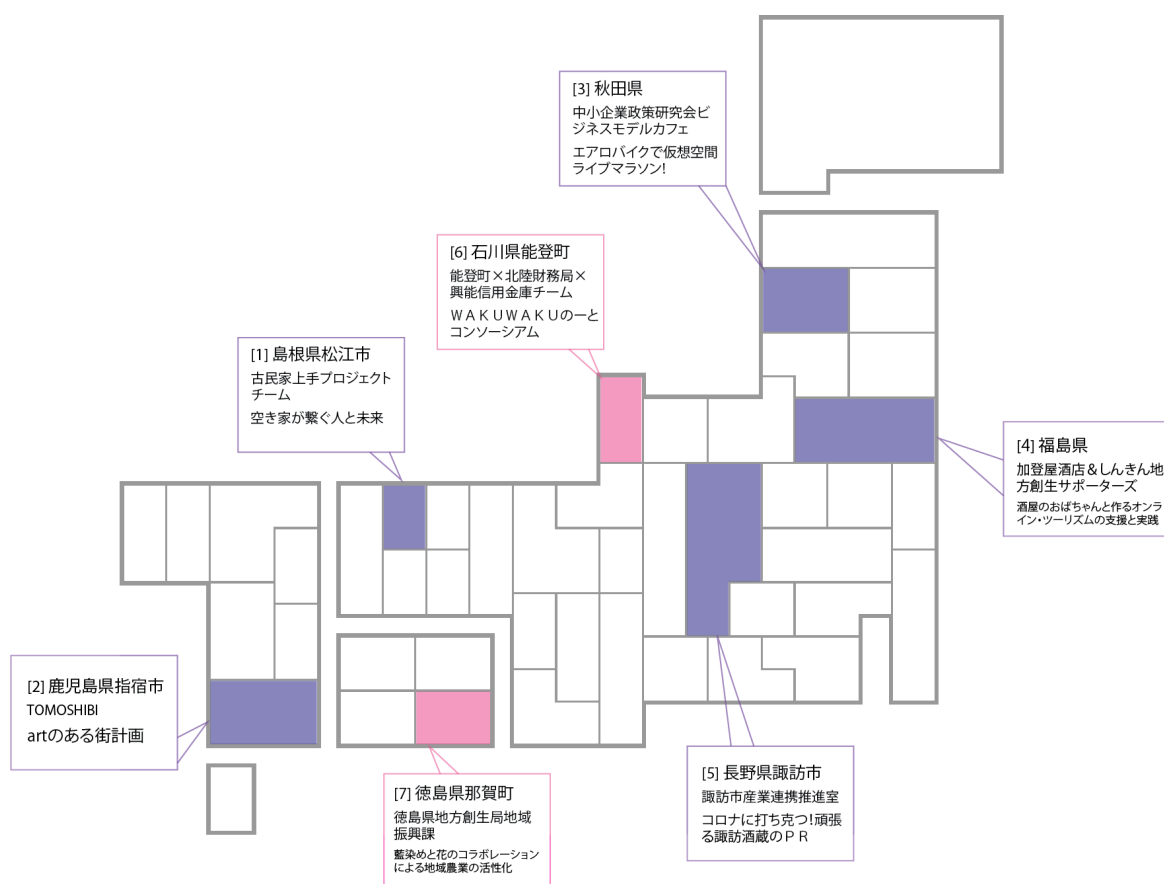


図 1 フォローアップ対象チームとその地域  
(チーム名やアイデア名はコンテスト参加時のもの)

## 1.4 事業の実施体制

本事業の実施体制は次の通り。一般社団法人オープンガバナンスネットワーク（OGN）の所属メンバーを中心に実施した。

フォローアップチーム

- ・ 奥村裕一 （一社）オープンガバナンス・ネットワーク 代表理事
- ・ 澁谷遊野 （一社）オープンガバナンス・ネットワーク リサーチ・ディレクター
- ・ 井上拓央 東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻 博士課程
- ・ 劉兆媛 東京大学大学院学際情報学府 博士課程

上記フォローアップチームに加え、フォローアップ対象チームの状況に応じて専門家を交えながら事業を実施した（詳細は次節）。

## 1.5 事業の実施方法

フォローアップの実施にあたっては、大まかに分けて、(1)事前のアイデアの検証と(2)意見交換会、(3)チーム向けチャットツールを用いたコミュニケーションを行った。昨年度からの継続フォローアップ対象チームについては(2)意見交換会、および(3)チーム向けチャットツールを用いたコミュニケーションのみを実施した。

(1)アイデアの検証と(2)意見交換会、(3)チーム向けチャットツールを用いたコミュニケーションに関する概要は下に示す通り。

### (1) アイデアの検証

発表資料等の事前調査やヒアリングから各チームのアイデアの現状や課題の整理を行なった。ヒアリング時には、以下の項目を中心に聞き取りを行った。

- ・ 提案アイデアの概要
  - アイデアの背景と目的
  - 目標
- ・ 現時点で実現されていること
  - 現時点までの進捗
  - アイデア実現に向けた持続的運営のための工夫
- ・ 自治体・企業・NPO・市民などとの連携状況
- ・ 目標の実現に向けての状況
  - 具体的な目標数値
  - 訴求するターゲットと提供価値
  - 活動の維持・拡大と方策
  - 今後の活動方針とスケジュール
- ・ RESASの活用状況

## (2) 意見交換会（各チーム1回から7回程度実施）

意見交換会は、(1)で明らかになった各チーム現状や目標などに応じて議題を設定して、フォローアップ対象チームのメンバーなどと議論を行った。なお、今年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大ため各チームの所在地を訪問し対面形式で実施することが困難であったことから、全てオンラインで実施した。また、(1)の結果、チームの課題や現状に対応した知見を有する専門家の参加が有益と判断された場合は、専門家の参加を得て意見交換会を進めた。

### 専門アドバイザー

フォローアップ対象チームのうち、専門家を交えた意見交換会を行ったチームと専門アドバイザーは次の通り。

#### [2] 鹿児島県指宿市 TOMOSHIBI

- 会田大也氏  
ミュージアムエドゥケーター。山口情報芸術センター（YCAM）の教育普及担当として、メディアリテラシー教育と美術教育の領域にまたがるオリジナルワークショップや教育コンテンツの開発と実施を担当する。2014年より東京大学大学院ソーシャルICTグローバル・クリエイティブ・リーダー[GCL]育成プログラム特任助教。あいちトリエンナーレ2019ラーニング・キュレーターを経て、2020年現在、YCAM学芸普及課長を務める。

#### [4] 福島県 加登屋酒店&しんきん地方創生サポーターズ

- 酒井一樹氏  
経済産業省情報プロジェクト室。2016年9月より現職。もともとは、ネットワーク、サーバ構築を専門領域とするサーバーインフラエンジニアとして、府省共通の旅費精算システム運用や開発保守に対する支援を主な職務としていた。現在は、経済産業省のデジタル化推進マネージャとして、デジタル・ガバメントやIMI共通語彙基盤等の情報政策や、省内のデジタル・トランスフォーメーションの推進にも携わり、積極的に推進している。
- 太田垣恭子氏  
ANNAI Inc. Co-Founder兼CCO。Code for Kyoto 代表、総務省地域情報化アドバイザー、内閣官房IT総合戦略室オープンデータ伝道師。2004年にANNAIを創業。データポータルサイトのDKANの開発・推進のほか、公的機関等の各種システムの開発・改修に携わる。

#### [6] 石川県能登町 能登町×北陸財務局×興能信用金庫チーム

- 原亮氏  
エイチタス株式会社代表取締役/独立行政法人中小機構基盤整備機構 人材支援アドバイザー。モバイルコンテンツの制作プロダクションにて営業、ディレクター、取締役等を歴任した後フリーランスへ転身。宮城県で地元行政、企業とIT団体を複数立ち上げたほか、2012年には仲間と起業し、地域で自走する人や組織、社会を作るための活動を展開。2016年2月よりエイチタス株式会社を設立し、代表取締

役に就任。

[7] 徳島県那賀町 徳島県地方創生局地域振興課

- 晝田浩一郎氏

2018年度コンテストの優秀賞受賞チームメンバー。株式会社官民連携事業研究所官民連携事業部チーフマネージャー。複雑化する社会課題解決を目指し、自治体と企業との連携を促進している元スーパー公務員。岡崎市役所へ勤務していた際に、プライベートで2016年から商店街の空き店舗を借り「ここdeやるZone」、サードプレイスコミュニティを創出。2017年にCode for AICHI、シビックテックを広める活動を開始。

(3) チーム向けチャットツールを用いたコミュニケーションの場の提供

昨年度までと異なり、新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため、対面でのコミュニケーションが取れないことから、チーム向けチャットツール「Slack」を用いて、フォローアップ対象チームのメンバーらがフォローアップチームなどと頻繁かつよりフラットな形で相談・連絡などが行える環境を構築・提供した。

## 1.6 事業のスケジュール

本事業の実施スケジュールは次の通り。各チームのプロジェクトの進捗状況に応じて日時や回数は調整の上実施した。

表 2 事業スケジュール

日時	チーム番号	概要
2020年11月28日(土) 14:00-15:30	[7]	第1回徳島県那賀町意見交換会
2020年12月8日(火) 15:00-16:15	[6]	第1回石川県能登町意見交換会
2020年12月19日(火) 15:00-16:15	[1-5]	フォローアップチームによるコンテスト視聴(今年度対象プロジェクト選定のための情報収集)
2021年1月13日(水) 18:00-19:00	[2]	第1回鹿児島県指宿市意見交換会
2021年1月13日(水) 13:00-14:00	[6]	第2回石川県能登町意見交換会
2021年1月21日(水) 16:30-17:30	[4]	第1回福島県意見交換会
2021年1月22日(金) 14:00-15:30	[1]	第1回島根県意見交換会
2021年1月22日(金) 18:00-20:00	[2]	第2回鹿児島県指宿市意見交換会
2021年2月3日(水) 17:00-19:00	[4]	第2回福島県意見交換会
2021年2月5日(金) 13:00-14:00	[5]	長野県意見交換会
2021年2月5日(金) 18:00-19:30	[2]	第3回鹿児島県指宿市意見交換会
2021年2月9日(火) 20:00-22:00	[4]	福島県オンラインイベント講習会 1
2021年2月16日(火) 20:00-22:00	[4]	福島県オンラインイベント講習会 2
2021年2月17日(水) 20:00-21:00	[3]	第1回秋田県意見交換会
2021年2月19日(金) 18:00-19:30	[2]	第4回鹿児島県指宿市意見交換会
2021年2月26-28日	[4]	福島県動画撮影
2021年3月2日(火) 18:30-20:30	[4]	福島県オンラインイベント意見交換会
2021年3月3日(水) 20:00-22:00	[3]	第2回秋田県意見交換会
2021年3月5日(金) 18:00-19:30	[2]	第5回鹿児島県指宿市意見交換会
2021年3月6日(土) 18:30-20:30	[4]	福島県チーム主催オンラインイベント開催
2021年3月10日(木) 13:00-14:00	[2]	第3回石川県能登町意見交換会
2021年3月10日(木) 18:00-19:30	[2]	第6回鹿児島県指宿市意見交換会
2021年3月12日(金) 13:00-14:00	[7]	第2回徳島県那賀町意見交換会
2021年3月13日(土) 20:00-21:00	[3]	第3回秋田県意見交換会
2021年3月14日(日) 18:00-19:30	[2]	第7回鹿児島県指宿市意見交換会

## 2 実施報告

### 2.1 [1] 島根県松江市 古民家上手プロジェクトチーム

#### 2.1.1 支援対象チーム

プロジェクト名 「空き家が繋ぐ人と未来空き家を利用した共生社会構築への挑戦島根県松江市持田町の事例を踏まえて」

所属・チーム名：古民家上手プロジェクトチーム

自治体：島根県松江市

受賞：コンテスト2020・地方創生担当大臣賞（大学生以上一般の部）

#### 対象チームのアイデア概要と現状

島根大学に在籍する外国人留学生の孤立解消や学生寮不足の解消、増加する空き家の有効活用を目的として、2017年より地域の空き家を「混住シェアハウス」として運営し、地域の拠点創出に取り組んでいる。今後は、大学および地元自治体との連携を進め、産学官コンソーシアムの形成を目指す。

#### 2.1.2 RESASの活用状況

古民家上手プロジェクトチームでは、現状の課題分析時にRESASの人口推移、自然・社会増減の推移、年代別社会増減状況の可視化・分析を実施している。また、これらRESASのデータに加え、島根県や松江市、大学の統計データや、自ら実施したヒアリングデータを組み合わせることで、課題の深掘りを行っている。こうしたデータの組み合わせによって、RESASで把握した人口減少や空き家増加という地域の課題を、大学生生活という文脈へ落とし込み、そこでの固有課題と結びつけたりその背景や解決策を探ったりすることができている。RESASを地域課題発見の入り口として有効に活用できている事例と考えられる。

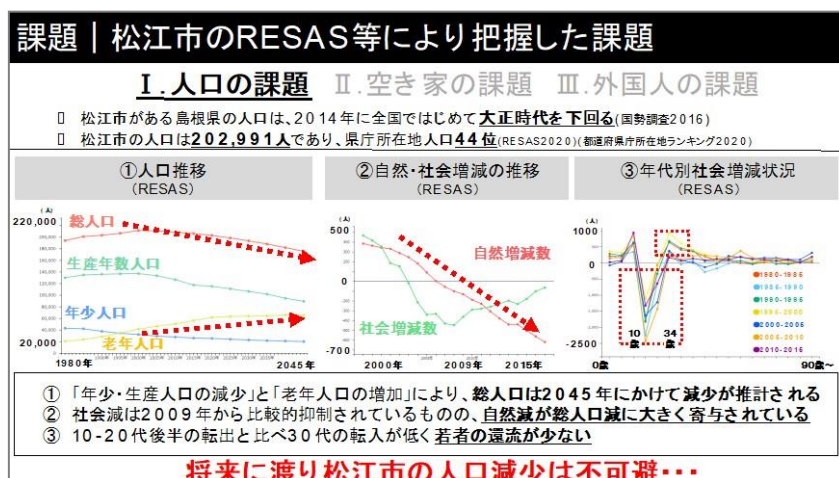


図2 RESASを活用した現状把握（コンテスト時の発表資料より）



## 2.1.3 実施内容

### 2.1.3.1 ヒアリングと意見交換会の概要

ヒアリングと意見交換会の概要を以下に示す。

表 3 島根県ヒアリング兼意見交換会概要

実施日	2021年1月22日(金)14時00分～15時30分
実施場所	オンライン
参加者	島根大学：佐藤様、橋本様、櫻井様 内閣官房：星野様 OGN：奥村、澁谷、井上、劉

(以下、敬称略)

### 2.1.3.2 ヒアリング兼意見交換会概要

#### アイデアの概要及び近況説明 (佐藤)

- コンテストでの発表内容
  - 課題：人口減少、空き家増加、留学生の孤立と大学の寮不足
  - ヒアリングの結果：留学生は、友達ができない、体調不良時に頼れる人がいない、大学のサポートが届きにくい、書類が日本語、外国人という理由でアパートを借りにくいといった課題を抱えていることがわかった。
  - 島根大学は留学生向けに72部屋を用意しているが、留学生数は増加傾向にあり2020年度は225人である。
  - 解決案：留学生・若者（日本人学生）・地域の三者を繋ぎ魅力ある地域をつくる
  - 目的：空き家増加問題の解決、外国人・若者・地域の分断の解決
  - コンセプト：三者が重なる中央に「混住シェアハウス」を位置付ける
  - 活動内容：農業・ピザづくり・餅つき・料理教室・ボジョレー解禁イベントなど
  - 地域市民団体との連携：映画ロケ地としての活用・クリケット普及活動・エシカル消費啓発イベント・コロナ禍における生活物資の支給
  - 収支：家賃（居住者全員で月6万円）でこれまでに初期修繕費200万円を回収
  - 来訪者：地域住民200名・日本人学生200名・留学生300名・地域の外国人50名
  - 目指したい未来：産学官連携による、空き家を大学寮にする事業
- 進捗状況
  - コンソーシアム設立を目指し企画書を作成した。
  - 島根大学・島根県庁・松江市役所に提案している。
- 悩んでいること
  - オープンガバナンスを進める上で鍵となる「地域の課題を一緒に探す」「市民が自分ごとで解決策を見つける」についてはこれまでの3年間の活動で実践できたが、「行政がプラットフォームになる」「協働で政策を実行する」が難しい。

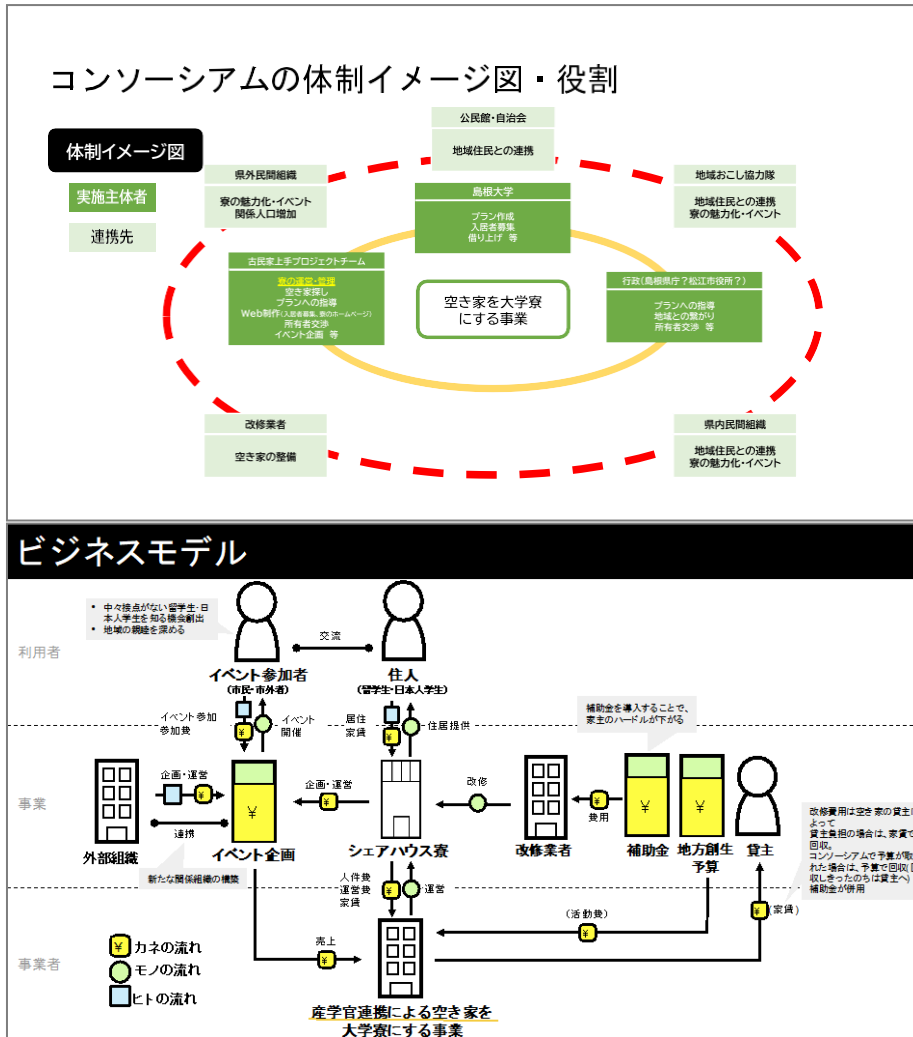


図 3 産学官連携コンソーシアムの構想イメージ（上）ビジネスモデルイメージ（下）  
（いずれも古民家上手プロジェクトチームの作成資料から転載）



図 4 「混住シェアハウス」で行った多国籍料理教室の様子

## フォローアップチームからの質疑

- これまでの活動に関して
  - 留学生は日本文化や日本語、産業を学びに来ている人が多いが、1年間在籍して帰国後はほとんどが島根に戻ってこない。ワーキングホリデーを経て島根に定住したフランス人留学生は温泉旅館で受付や翻訳の仕事をしている。
  - 物件は地元の自治会の方を通じて紹介を受けた。留学生には個別に声をかけたり、大学の国際交流センターを通じて紹介したりした。
  - プロジェクトチームの体制は提案者の3人と住民2~3人。
  - 生活してみて、留学生との交流が楽しく、イベント運営なども良い経験になっている。文化の違いに基づく考え方の違いもあるが、共同生活の支障になってはいない。
  - イベントに参加して、ゲームなどを通じて各国の若者に共通の趣味や話題を知ることができたのが良い点。
- 大学及び行政への働きかけに関して
  - 行政がプラットフォームになる上では、首長から現場の職員の中で、関心を持っている人が始めることになる。近江八幡市の場合は商工会議所の会頭が市長に働きかけた。横浜市では職員にやる気があった。松江市役所の中でこのような活動に関心を持つ人がいるかどうか。市民協働課や情報政策系、企画系の窓口で市民と一緒にコラボレーションしていきたいという人を探し、その人をきっかけにするのが入り口。行政職員は前例を重視するので、これまでの活動で前例を作ったのは素晴らしい。
  - 顔が利く人を探すのも伝統的なやり方。
  - 留学を控えた日本人学生が留学生との交流を通じて海外生活の練習をすることができると、チームメンバーの実体験や活動を始めた理由についてのストーリーを、データ分析から明らかにした課題とセットで提示すると説得力が生まれやすいのでは。
- コンソーシアムの設立に関して
  - コンソーシアムを設立することのメリットを改めて整理する必要がある。
  - 大学が参加するメリットとしては、賃貸住宅を借りる際の保証人の問題の解消が挙げられる。また、大学としても学生のグローバルな感性の育成を掲げており、留学生向けの魅力ある滞在プランの作成にも繋がる。そもそも、留学生の寮の確保は大学の課題なので、大学がやらない方針であればこれ以上は活動を拡大しないつもりである。
  - 行政が参加するメリットとしては、新たな物件を募集する際の広報や補助金の獲得において役割を担ってもらうことができる点が挙げられる。
  - まずはプロジェクトチームが先頭に立って引っ張ることが必要。運営団体を作るという方法もある。その上で理事や推進委員として大学の先生や行政職員に入ってもらうことを検討すると良い。
- 当面の活動及びフォローアップの方針
  - 大学から離れており、普通に学生生活を送る上では訪れる機会のない地区に情報発信拠点としての役割を持つシェアハウスを設立することで活気が出る。地域全体に住むところを分散させたいという思いがある。こうしたコンセプトを打ち出すのが良い。

- 地域の国際交流の場としてのコンセプトを設定した上で、そこに向けた課題を論理的に落としていくと面白い。
- 同じく受賞した県庁の若手職員のチームとも繋がると良い。
- 県庁への報告に向けたアイデア内容の整理と、大学及び行政の反応を見てからもう一度フォローアップのミーティングを設定する。必要なアドバイスの視点を事前に共有してもらえれば、その分野に詳しい人にも声をかけて参加してもらおうようにする。

#### 2.1.4 今後のフォローアップの方針

- コンテスト受賞に関連した県庁・市役所への訪問の結果を踏まえ、今後の産学官連携コンソーシアムの設立に向けた準備や方向性を検討する。

## 2.2 [2] 鹿児島県指宿市 TOMOSHIBI

### 2.2.1 支援対象チーム

プロジェクト名 「artのある街計画」

所属・チーム名：TOMOSHIBI

自治体：鹿児島県指宿市

受賞：コンテスト2020・地方創生担当大臣賞（地方公共団体の部）

#### 対象チームのアイデア概要と現状

地域おこし協力隊として鹿児島県指宿市へ移り住んだチームメンバーらが、高圧洗浄機を用いて街なかのよごれた壁をキャンバスにして絵を描くアート活動を始めた。今後は、地域住民の参加や、教育とアートの組み合わせによる活動の展開などが課題。

### 2.2.2 RESASの活用状況

TOMOSHIBIのチームメンバーが日々の生活の中で気がついた「よごれて薄黒い壁が多い」という地域の現状に対して、「なぜ」そのような状況になっているのかを探るためにRESASが活用されている。RESASの人口推移、年代別社会増減状況、空き家数の可視化・分析を実施している。日常の感覚的な気づきを、RESASを用いることで量的に評価し、課題が生まれている背景の模索のために有効に活用することができる事例と考える。これにより、チームの活動が地域社会の中でどのように位置づけられるのかを、ストーリーとして伝えられるようになっている。

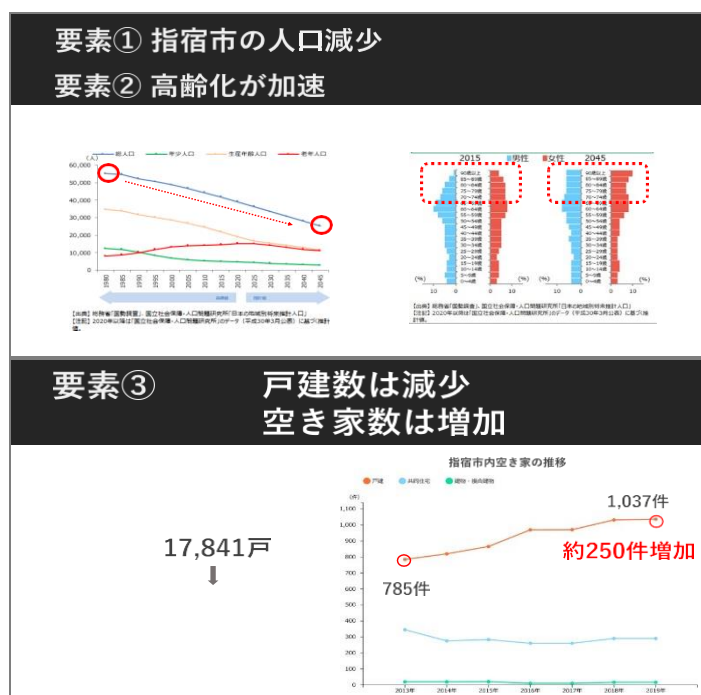


図 5 RESASの活用状況（コンテスト時の発表資料より）

## 2.2.3 実施内容

### 2.2.3.1 ヒアリングと意見交換会の概要

ヒアリングと意見交換会の概要を以下に示す。

表 4 鹿児島県ヒアリングと意見交換会の概要

実施日	実施内容	参加者
2021年1月13日(金) 18:00-20:00	ヒアリング 兼第1回 意見交換会	TOMOSHIBI：瀬戸口様、 元吉(MOTOR)様 内閣官房：星野様 OGN：奥村、澁谷、井上、劉
2021年1月22日(金) 18:00-20:00	第2回 意見交換会	TOMOSHIBI：瀬戸口様、元吉様 内閣官房：宇野様、菱沼様、星野様 山口情報芸術センター：会田氏 OGN：奥村、澁谷、井上、劉
2021年2月5日(金) 18:00-19:30	第3回 意見交換会	TOMOSHIBI：瀬戸口様、元吉様 内閣官房：宇野様、菱沼様、星野様 山口情報芸術センター：会田氏 OGN：奥村、澁谷、井上、劉
2021年2月19日(金) 18:00-19:30	第4回 意見交換会	TOMOSHIBI：瀬戸口様、元吉様 内閣官房：宇野様、星野様 山口情報芸術センター：会田氏 OGN：奥村、澁谷、井上、劉
2021年3月4日(木) 18:00-19:30	第5回 意見交換会	TOMOSHIBI：瀬戸口様、元吉様 内閣官房：宇野様、菱沼様 山口情報芸術センター：会田氏 OGN：奥村、澁谷、井上、劉
2021年3月10日(木) 18:00-19:30	第6回 意見交換会	TOMOSHIBI：瀬戸口様、元吉様 内閣官房：宇野様、菱沼様 山口情報芸術センター：会田氏 OGN：奥村、澁谷、井上、劉
2021年3月14日(日) 18:00-19:30	第7回 意見交換会	TOMOSHIBI：瀬戸口様、元吉様 内閣官房：宇野様、菱沼様 山口情報芸術センター：会田氏 OGN：奥村、澁谷、井上、劉

(以下、敬称略)

ヒアリングと第1-5回意見交換会の概要を以下に示す。



## 2.2.3.2 ヒアリング兼第1回意見交換会概要（2021年1月13日 18:00-20:00）

### 進捗と課題の説明（瀬戸口）

- 地域おこし協力隊が市内4箇所の壁に絵を描いて、県のテレビにも報道されて一定の話題性を持っている。
- 市内の学校の学長と繋がりを持っていて、学校とワークショップをやりたいと考えているが、そのためにステンシルが必要。ステンシル制作費の資金調達が今の課題で、スポンサーや協力できる業者さんを探している。
- ステンシルの使い方は主に市内の子供（学生）に描いてもらうために、特に絵心のない学生にパターン的なものとして提供する。
- 具体的な金額はまだ不明。
- 協賛可能な企業への企画提案書を準備中。



図 6 TOMOSHIBIの作品例黒ずんだ壁をキャンバスにして汚れを落とすことで絵を描き出す

### フォローアップチームからの質疑とアドバイス

- 資金調達について（アドバイス）
  - クラウドファンディングも考えられないわけではない。
  - アイデアの魅力点：黒い壁を芸術作品（ネガティブからポジティブ）に転じる点；まちづくりの観点から地域の魅力向上と人を集める可能性。
- アイデアの中にどうやってアートを盛り込むのか。
  - 活動自体は市民の方に取り組んでもらって、活動によって市民のアートへの理解が深まり、地域全体としてアートが生まれやすい環境、アーティストが活動しやすい環境へと変化させる。最終的にcreatorが住みたい街になる。そのため、独自の資源として、砂温泉、ハイビスカスなどがある（瀬戸口）。
  - ステンシルを使いたい家庭を募集して、集めて、活動を通じてコミュニティが盛り上がる物語を作り出す（奥村）。

- ステンシルについて
  - 素材：貸し出しで使ってもらうので、木やプラスチックで安価で高圧洗浄機をかけても大丈夫なものが必要。
  - デザイン：学生が作ったものがより魅力的だと考えている。
  - 学校の美術や芸術の先生と組んでも良い（澁谷）。
  - ただ学生に使ってもらうのではなく、学生がグループになって積極的に活動する方がより多様なアイデアが生まれる（奥村）。
- 次のステップ
  - 学校と子供たちと一緒にやるときの仕組みを考えて構築する。
  - ステンシルについて具体的にどれくらいが必要なかを明確にして、最初は寄付などの方法も検討する。

### 2.2.3.3 第2回意見交換会概要（2021年1月22日 18:00-20:00）

#### 教育現場での取り組み

- 地元の中学校と協力して、生徒たちにステンシルを作成してもらい、型枠を使って高圧洗浄機を当てて絵を描くプログラムを美術・技術の授業で実施する計画を進めている。
- 元々は壁に絵を描いてほしいという相談を受けたが、子どもたちと一緒に取り組みたいと考えていたため校長・教頭に打診したところ快諾された。（瀬戸口）
- 全校生徒54人の小規模な中学校だが、全員で高圧洗浄機を用いて描くのは難しい。デザインを考える段階は全校生徒が関わり、有志を募って放課後や休日に作業することも検討している。（瀬戸口）
- アートなので成績のつかない授業の枠組みを使えると良い。
- 校長・教頭はこのような活動を期待しているが現場の先生はそう思っていないというケースもあるので慎重に進めなければならないが、学校側のゴールとTOMOSHIBIの2人のゴールが一致していればいるほど取り組みとしてはうまくいく。（会田）
- アーカイブの方法について予め学校側と話し合っておくと良い。後から写真の掲載許可を保護者に取るというのはなかなか難しい。ワークショップの時間的な構成表を作っておき、それぞれの段階で撮ることができそうな画像の内容と構図を決めて撮影担当者に依頼しておくなど、確実に撮れるよう事前に準備が必要。コンテストに出展する際のキラーフォトを撮れるかどうか重要。広報されないと2人の実績に繋がりにくいですが、成功事例として広報誌、報道を通して参加していない人も共感できるようにすれば地域に広がりやすい。（会田）
- 他に小学校・公衆浴場・整骨院の外壁でも絵を描く話が進んでいる。小学校などのようにステンシルが必要になる場合、費用捻出の方法が課題となっている。（瀬戸口）

#### アートとしての定義づけ

- 今回のプロジェクトは何をもってアートと呼ぶのか。絵そのものと、街の風景を変えていく社会活動という2つの段階がある。（会田）
- 地域の人々が壁を綺麗に維持することができないという社会的な課題があり、それを逆



手にとって高圧洗浄機というツールを使って作品を描いていくことにより、街の風景そのものと地域住民の意識が変わっていくということが価値の本質になる。その部分を物語るストーリーが必要。地域に依頼されてニーズに応える形で描くというだけでは、本来やりたかったこととは違う。(会田)

- ストーリーを物語るために、社会彫刻としてのアートを住民にどのように捉えてもらうかという視点での論理的な整理・設計が必要。このようなストーリーは批評家が寄り添って作り上げていくことも多いので、サポートしてくれる人がいると良い。(会田)
- 自分たちでこれがアートだと言い切ることは大事。その上で、過去の似たような取り組みを徹底的に調べて、それらとの違いやユニークネスを整理する。ゴミや社会問題を取り上げて、表裏を反転させてアートにするというものと意識は同じで、手法として汚れた壁と高圧洗浄機を用いるというように位置付けると、アートの文脈でも評価されるようになるのではないかと。(会田)
- 過去を乗り越えた結果が最新の作品である。活動の最初の動機は「楽しいから」でも良いが、突き詰めていくと過去との関係が問われていく。過去の作品とどう違うかという視点を最初から意識すると強い。(会田)
- 決め台詞やメッセージを強く意識すべき。普通は白いキャンバスに影を入れていくが、逆に暗いキャンバスに光を入れるということが、社会に対するアプローチとリンクしている。それを活用し、社会的なメッセージを伝えることができる。似たような手法を考えている人はいるので、社会とどのように結びつけるかがポイントになる。ヨーゼフ・ボイスや川俣正など実際の社会問題と呼応してアートがどのように社会を変革できるかを実践している人の事例を調べた上で、自分たちのミッションを明確に。(会田)

### 描く手法の洗練化

- 実験的に様々なステンシルの作り方を実践しても良いのではないかと。(会田)
- 初心者がグラデーションを描くのは難しいので、ステンシルを使ってメリハリのついたシルエットを描くと割り切ってしまうほうが展開しやすいと考えていることについては、できればステンシルを使ってもグラデーションができるような方法を探しても良いのではないかと。書き方や道具の使い方を検討し、誰でもグラデーションが描けるというほうが画期的。誰でも簡単にできるとなると、せっかくの興味関心が失われてしまうかもしれない。(会田)
- 例えば、陶芸教室はたくさんあるが、陶芸家のような技術がなければできないということであれば裾野は広がらなかった。簡単に描きたい人はこの方法、その上で技術を学ぶとこのような作品も描ける、という参加のレイヤー・ピラミッドがあったほうが面白い。(会田)
- 筆とは違う、美しいグラデーションが一発で出るという新鮮な驚きや感動が失われないほうが良いのではないかと。(会田)

### 地域へのアーティストの呼び込み

- アーティストが集まってくるために必要な要素として、現金収入を得る見込みがあるかというのは大きい。地域おこし協力隊として入って、自由にアーティスト活動をしてくださいという形で活動している人もいる。(会田)

- 制作スペースについても、自由に使える制作に没頭できるのは重要。公的な主体がサポートしている場合、税金を無駄に使わせていると煙たがられる場合もあるので、民間の施設のほうが良いかもしれない。原状復帰しなくて良いというのは良いこと。(会田)
- プラスアルファとして地域住民とのネットワークがあると良い。困ったことがあったら答えてくれるサポーターがいる、地域住民との飲み会でネットワークを作れる、といったことも大事。人間的なリソースとして、マネジメントの人がきちんとお世話をする、使命感を持ってできる人がいる、ということが重要。マクロなマネジメントとミクロなサポートの両方をできるプロデューサーになるかどうか。(会田)
- アーティスト自身が人脈のネットワークを持っていることもあるので、呼び込みアーティストを選定する際にも背後のネットワークが重要。公募をかけ、書類審査の段階でその人の名前を検索し、誰と知り合いであるかを判断材料にする場合もある。(会田)
- 土地に独特な歴史があるかどうかも重要。最近では民族学的なアプローチをするアーティストも多く、民俗学者とは異なるアプローチで独自の気付きをすることもある。下道基行さんは沖縄の砂浜に現れる大きな石から着想を得て、人類学者や作曲家らとともに「宇宙の卵」という架空の昔話を作成してヴェネツィア・ビエンナーレに出展したが、沖縄の離島は滞在して作品を作る上で魅力ある場所だと語っていた。指宿周辺も鰻池と西郷隆盛のエピソードや、マグマの力の恩恵をうまく使って時代に合わせた利用をしてきた歴史など、魅力的な文脈が存在している。それらを観光資源になるかどうかとは別の切り口で切り取ることにはアーティストは非常に興味を持つのではないか。(会田)
- 大切にしたい地域の宝を深く考えて、言葉を研ぎ澄ましていく作業が必要。その際にマーケティング的な正攻法を用いる場合と、アーティストの感性に従う場合とがある。(会田)

#### 当面の方針

- 制作に関する実験は早急に進め、技術を確立し、人に伝えていく必要がある。
- その一方で、世の中への伝え方を考える。雑誌の編集者などに相談し、アーカイブの残し方から設計していくと良い。
- まずは自分たちの哲学や制作過程を発信するメディアを作ると良いのではないか。ゲストを呼んでポッドキャストを配信するなど。
- 当面は定期的なミーティングの機会を設け、コンセプトを明確にしていく。

## 2.2.3.4 第3回意見交換会概要 (2021年2月5日 18:00-19:30)

### 活動の進捗報告 (瀬戸口)

- 美術担当の先生を含む校長先生以外の先生方にも伝え、良い取り組みだということでプログラム実施の了解を得た。実施に向けたスケジュールを作成中。美術の授業の時間を3時間使う。型枠作りに技術の授業の時間を使うことはできないが、授業時間外で希望者を集めて行うことになった。(瀬戸口)
- 徳光温泉(地域の公衆浴場)とも壁に絵を描く相談をしている。
- 指宿市民会館の仮囲いについても市の担当者と2回打ち合わせをした。ただ描くだけでなく、市民会館ができることを市内外の多くの人に知ってほしいと考えている。メディアに取り上げてもらいやすいように、教育委員会を通じて全小中学校にチラシを配布して参加者を募っている。元吉さんが原案を作り、子どもたちが描きたいものを取り入れて最終的に元吉さんがまとめるというやり方を考えている。(瀬戸口)

### TOMOSHIBIアートを定義する

- 原案(瀬戸口、元吉)  
自然は、人工物で構成された景観を風雨、カビ、植物などの力で長い年月をかけ本来の形に戻そうとします。まさに自然の力そのものです。一方、人間目線でこれを見てみると、人為的景観を損なう邪魔者として扱い、毛嫌いし、清掃することでこれを解決してきました。つまり、自然と人間のエンドレスな陣取り合戦のようなものです。この戦いの現状は、都心部では潤沢な資金を背景に人間が優勢にすすめています。地方になればなるほど、都心部への移住、住民の少子高齢化、財政の弱体化、いわゆる過疎化が原因で劣勢となっています。植物に覆われた廃屋や黒ずんだブロック塀などはそのわかりやすい例です。このような暗い印象を与えている現状を変えるため、住宅や公共施設のブロック塀に付着する「黒い邪魔者」を利用し、「清掃」という概念から「創作活動」という新たな取り組みで、地域住民とともにアート作品に昇華させ新しい価値を生み出します。清掃に無関心だった方も含め、アーティストや様々な職業の地域住民がそれぞれの立場で企画と制作の場面に登場し、話し合い、一緒に考え、作品作りに取り組むことで、暗い印象を与えている景観問題を解決していきます。そしてこの取り組みから生まれる作品が「TOMOSHIBIアート」です。

「TOMOSHIBIアート」

「黒い邪魔者」を利用

高圧洗浄機を使用・地域住民が係わる

「TOMOSHIBIアート彩」

カラー

汚れが薄いなど不向きな状況や必要性に応じて対応。

- 前半では、自然と人間の陣取り合戦の中で地方では人間が自然に押されている状況を示し、後半では、高圧洗浄機を使ってその状況を逆手にとってアートにしていくという説明をしている。カラーで描いてほしい、あるいは高圧洗浄機では落ちない、という状況はTOMOSHIBIアートに当てはまらないので「彩」を設けた。(瀬戸口)

- 要望を受けて絵を描くこと自体が面白いのか、世の中からの期待と活動のコアコンセプトのギャップが面白いのか。絵画そのものが作品というだけではなく、ソーシャルコミュニケーションが作品であるということに指宿の人が徐々に気づいていくことに面白さがあるはず。数をこなすにつれて、世の中が芸術だと思っている枠組みから外れていくという予感がある。この倒錯が芸術のコンセプトになる。ヨーゼフ・ボイスのいう社会彫刻に近い。(会田)
- 作るまでの過程を地域の人を経験することで、地域で何かすることに対してやる気生まれたりすることに価値があると思っているが、言語化できていない。(瀬戸口)
- 書いていただいた原案の中にもその要素を見出すことは可能。良いライブが観客席を演奏者にしてしまうように、お客さんでいるつもりだった人が街を変える立役者になってしまうかもしれない。自分たちの街を自分たちでどうにかするという状況がアートによって実現するのであれば、ある意味では現代美術の王道のやり方。オーナーシップを取り戻すというところに本質があると思っている。短時間で効率的にという話ではなく、粘り強くコミュニケーションしていくことによって意識が変わっていくかもしれない。TOMOSHIBIがみんなを変えたのではなく、TOMOSHIBIが来ることによって元々そういう気質がある人のトリガーにスイッチが入るということもあるかもしれない。(会田)

#### ニーズのあるところに出向いて人を巻き込む

- 集まってくれたメンバーで終わるのではなく、さらに人を巻き込むためにはどのように仕向けるとよいか。(瀬戸口)
- 小さなニーズがあるところに出向いていくのが良い。困りごとが解決され、自分にメリットがあるということにならないと活動が持たない。問題解決のジェネレーターを持っていて、最初はそこからスタートし、背景には大きな物語があるという建て付け。鹿児島市では、市の文化施設でいらぬ家財道具の引き取りと家や商店で困っていることの2つを公募し、別々の公募を組み合わせることでニーズを廃材で満たすという取り組みをした。ある幼稚園で30年使われていた積み木を使ってほしいという依頼に対し、ホテルの受付の脇にチラシ置きがほしいという依頼を組み合わせ、積み木ブロックを解体して組み替え、チラシ置きを作った。どちらも困っているからこそ、出向いていく意味がある。いきなり廃材を利用してアートをやりますと言っても「信憑性」がない。ニーズがない人を巻き込むのは長続きしない。(会田)
- 自分たちも一緒にやっていくという気持ちを生み出す具体的なプロセスとしては、目の前の困っていることを解決するというところから入る。活動していると、君たちがやっているのはもしかしてこういうことじゃないか?と突っ込んで聞いてくれる人がいて、そうなったら深い話をする。それによって良いコラボレーションができていく。(会田)
- 壁が黒くなっていることについて、地元の人あまり気づいていない。作品を見て、こんなに汚れているのだと気づいてもらうことのほうが多かった。(瀬戸口)
- TOMOSHIBIの活動によって自分の家が汚いことが認識されてしまうからやめてくれというシナリオもあり得る。綺麗事だけでは成り立たないのがリアルな社会。それでも長い時間をかけて議論を続けていくことで変わることがあるのが重要。地域おこし協力隊として長く住んでいることのアドバンテージは大きい。コミュニケーションを地道に重ねることがものをいうプロジェクト。(会田)
- 壁が汚れているからきれいにしてほしいというのは相思相愛だがうまく利用されてはいけな、というところが難しい。そこに至るまでにしっかりと会話をしなければいけな

- い。(瀬戸口)
- コンセプトや哲学を強く持っていればブレずに済む。(会田)

### 子どもたちへの伝え方を考える

- 住民がオーナーシップを持つという大きなレイヤーを中学生にどのように伝えるか。(澁谷)
- 先生方が盛り上がっているのに、中学生が実際にどう思っているのかはまだわからない。活動自体も知らない生徒が大半なのでリアクションが楽しみでもある。子どもたちの反応を伺って自分たちも変わっていったら良い。一方で、子どもたちにどう伝えるかは難しい。まずは楽しかったと思ってもらうのが一番だと思っている。(瀬戸口)
- 面白いことはもちろんだが、学校の先生とアーティストが言うことが違って混乱するという体験をしてもらいたい。学校の外には変わった大人がいて、何か違う価値観の軸で生きている、世界は広いという経験を残せれば。(会田)
- 絵のテーマも、学校の授業では描けないものをやりたい。「夢」などでも良いが、授業でやりがち。楽しかった度合いが高いことが重要だと思っていて、そこは妥協したくない。出来上がったもののクオリティも大事。(元吉)
- 出来上がったものが想像の域を超えていることが本質的に重要。(会田)
- テーマについては校長先生から校歌の一部を絵にするという提案があったが、その通りにやったら意味がない。他所からきた人が違うことを言うのが大事だと言うことを実感した。(瀬戸口)
- テーマをオリジナルで作っていくのもあり。1000年後に壁画が発見された時に書かれている物語を考えるなど。絵が苦手な子でも物語に関われるというような「かかわりしろ」の幅が広いほうが良い。(会田)
- テーマ選びの方法は、基本的にはリサーチ。面白いものの何が面白いのかを分析し、どうすれば違う形でできるかを考える。例えば三輪眞弘さんという現代音楽家は算額をもとに「またりさま」という架空の神話を作っている。徹底的に調べると面白いものや面白くないものが見つかる。(会田)

### ワークショップを設計する

- スクリプトを書き、アーカイブ撮影の担当者には撮影ポイントを指示する。昔からワークショップをやっている人には、細かく決めすぎるとなにもできないと言われてしまうが、設計しておくことによって応用やアドリブが効く。すごく面白い発言が出て5分間使ったとしたら、その分をどこかで取り戻さなければいけない。設計図が頭に入っていれば調整ができる。複数のファシリテーターがいる場合のクオリティコントロールにもなる。セリフの文字量を計算して何分かかるかを書いておく。(会田)

### 今後の方針

- 年度内の目標としては、ストーリーの設定とワークショップの大まかな設計を行うこととする。適宜メールで共有。
- 具体的な活動が大きな方向性に則しているのかどうかを測定する数値的な情報もあるとプロジェクトを振り返った時の厚みとして面白いので、今後検討すると良い。
- 資金については、来年度は指宿市の基金から。長期的には別の方法を検討。
- 2/12のオンライン展示会に出展する。次回の意見交換会(2/19)で報告。

## 2.2.3.5 第4回意見交換会概要 (2021年2月19日 18:00-19:30)

### 活動の進捗報告 (瀬戸口)

- 徳光温泉の壁に描くことについては明日打ち合わせを行う。
- TOMOSHIBIアートの定義について、アートのある街計画とそこから生まれるTOMOSHIBIアートという構えで整理しようとしている。街の暗い印象への言及が唐突だったため、その前段としてブロック塀の黒ずみが暗い印象に繋がることの説明を追加した。

### TOMOSHIBIアートを定義する (前回からの変更点)

- ネガティブな状態の記述が3段落にわたっている一方で、ポジティブな状態に転換するところが最後の1段落だけというのがもったいない。対抗策をアピールしたいはずなので、そこをもう少し詳しく書いても良いのではないかと。抽象的な課題は、街に住んでいる人が手間隙をかけて自分たちの街をいじっていくということが失われつつあり、街への関心を失いかけているのではないかと。TOMOSHIBIアートは、塀の汚れ自体を、人々が街を自分たちで手を入れていい場所だと認識し、メンテナンスの意識が生まれてくるためのリソースとして捉えるところに既存の価値観の転換がある。その転換がアートとして重要だということを述べる部分のボリュームを増やしても良い。不平不満ばかりが書かれていると受け取られてしまうと損。(会田)
- 街が暗いということをコンテストのプレゼンでも連呼していて、行きたくない場所だと思われてしまうのかなと自分でも思っていた。(瀬戸口)
- 実際にそうだとすると、声高に言わなくて良い。作品を描くことで街が美しくなることを超えて、街の人が自分たちで街のメンテナンスをすることが可能だと思ってもらうことが重要。TOMOSHIBIアートに感化されて、例えば小学生が鉢植えに花を植えていきたいと思うなど、波紋が広がっていく。アーティストが自己表現のためにやっているのではなく、街の人のマインドが変わっていくことに意味がある。実際に依頼がいくつか来ていることは、マインドの変化の一つだと思う。(会田)
- ソーシャルデザインアートである。やってよかったよねということに気づくのがポイント。地方都市でも、競い合うように庭をメンテナンスしているエリアもあり、そのような地域に出向いていくと、建物は古くても手が入れているのを見て元気をもらえる。そのようなことが文章から感じられると良い。(会田)
- 知覧の武家屋敷も、建物は古いのが常に人が見にくるという意識があるので、いい刺激をもらっている。(瀬戸口)
- 人間の身体に喩えると、毛細血管の端々まで血液が通っている街とそうではない街があり、訪れた人の印象が違う。そういうことが重要。(会田)
- 次回に向けて、未来の話とポジティブな内容を入れて後半をボリュームアップする。(瀬戸口)
- アート×教育の話も入れると良い。アートが人材育成に繋がっていくということにも触れられているのが面白く、かつアートの原則からも外れていない。ピュアな芸術畑の人の中には、社会の役に立つなどと言うと違和感を覚える人もいるが、世の中の流れではソーシャルグッドな取り組みがコンペで賞を取ったり、ヴェネツィア・ビエンナーレでも評価されたりしている。役に立つというよりは飛び火して良い効果生まれる、あるいはそれ自体を目標にはしていないがスピニングアウトしてこの効果もある、というので良い。主軸はアートでよく、教育とかけることを本筋として描く必要はない。(会田)

## コンペに出展する

- ミッドタウンアートコンペについて調べた。ミッドタウンの中に作品を描くというもので自分たちにできるのかと思ったが、出だけ出してみるべきか。(瀬戸口)
- 取り組みに説得力があればどのようにでも解釈してもらえる。審査員にも面白い人たちが入っている。昨年の審査員を見ても、アートを社会とどうやって繋げるかという視点を盛り込んだほうが評価されるのではないか。去年のコンペでは、あまりにもコロナのことばかり言い過ぎだという苦言があった。そればかりだと審査員が辟易する中で、TOMOSHIBIはコロナを直接扱ってはいない。瞬間風速的な話題ではなく、日本全国に通底する普遍的なテーマなので、エントリーすると目立つと思う。(会田)
- 今のは良い指摘。本心でコロナのことをやっているならいいが、そうではない場合もある。(奥村)
- 場合によっては、ブロック塀を持って行ってミッドタウンで組み立てるなどもあり得る。すでに指宿にあるものを応募して、解体して運び現場で再組み立てしますと書いてもいいかもしれない。(会田)
- それができたら面白い。写真を見てもらっての審査なのか。(瀬戸口)
- 最初は書類審査で、その中でどう説明できるか。ミッドタウンはお洒落なスペースだが、そこにブロック塀の汚れを持ち込む違和感、アートとしての迫力は素晴らしい。日本の中でもトップクラスに小綺麗な場所で都会の人に地方の現状を見せるのはアートとして強い。(会田)
- 重量や水の使用には規約を読んで注意する必要があるが、ブロック塀を実際に持っているとなると今後の見せ方の幅が広がってくる。(澁谷)
- コンペごとに特性があり、審査員の顔ぶれも見ることがある。その人が出している新書を読んで、反応しそうなキーワードを入れてエントリーするなどはやっている。同じ作品でもミッドタウンのコンペとグッドデザイン賞では評価されるポイントが違う。(会田)
- ブロック塀の現場での展示が本当にできるか検討する。取り壊しになる民家などであれば可能性がある。(瀬戸口)
- ぜひやってくれという人がいれば、展示期間となる1ヶ月間はパブリックとプライベートの境界である塀がなくなり、その間は街の人と交流できるというようなことを面白がれるかもしれない。現代アーティストとしては作品を一般の人に見せる意味を考えなければならぬし、パブリックの意味に言及している作品は強い。塀をミッドタウンに持ってきている間の現地の写真をミッドタウンで見られたりすると、考えさせられるポイントになる。アートというのはそういう広がりを持っているもので、優等生になりすぎるのではなくアートでないとは実現できないという話になっていけば良い。ブロック塀というのはパブリックな場所からの視界を遮るための装置だったが、キャンバスになることでパブリックに対するある種の表現の土台になっていくというのは面白いと思う。絵画は普通、家の中に飾ってあったりするが、TOMOSHIBIアートは自分の所有物であるのに自分の家の中からは見えない。プライベートとパブリックが反転しているところが面白いのではないかと。どのような方法が良いかについてはTOMOSHIBIのお二人がよく考えて検討していただければ。(会田)
- 作品をいろいろな視点で見っていくのが大事だと分かった。(瀬戸口)
- いろいろな人が語れる作品というのは素晴らしい。日本の美術教育や文学は、作者の意図はなんですかというのを問われるゲームになってしまっているが、アーティストのほ

とんどは作者が思ってもみなかった解釈がお客さんから出てくることを面白がっている。(会田)

- そこまで行けば本物でしょう。社会科学でも全く同じ。(奥村)
- 突っ込みどころをあえて作ったほうがいいかもしれない。(瀬戸口)

#### 中学校でのワークショップを設計する(前回からの進捗)

- 中学校の件は、現場の先生たちの了承ももらえて、前回いただいたワークショップの企画書で大項目として何が出来るかを元吉さんが考えているところ。(瀬戸口)
- まだ全然考えられていない。パターンとしては2つある。ステンシルのテーマを決めて生徒たちに切ってもらい、高圧洗浄機で描くところも体験し、最後に僕の作品とうまく組み合わせるといパターンと、小さめのステンシルを生徒たちに作ってもらい、それらを組み合わせると絵を作り、高圧洗浄機で描くのは全部自分でやるというパターン。後者のほうが、生徒が取り組む際のハードルは下がる。(元吉)
- 今日初めてその話を聞いたが、手法からスタートしている。子どもたちに何を得てほしいかを起点に考えるべきだと思うが。(瀬戸口)
- 生徒たちが関わる中でクオリティが一番大事だと思っている。すごいものができることでメディアに取り上げてもらえる。ただ作品がすごいだけではなく汚れている壁を利用してこんなことができるというようなことを実感してもらうためには、できるだけ高いクオリティにしたい。僕の中で、僕の絵と生徒たちが作ったステンシルを組み合わせるとクオリティが高いと思えるものが思いつかなかったの、別の手法として小さめのステンシルを組み合わせることを考えた。その場合、実際に生徒たちが汚れを落とす体験が出来ないのがデメリット。(元吉)
- 悩ましいところだと思う。(会田)
- 妥協案はあり、作品のイメージまで出来ている。例えばテーマを夢として、それに基づいたモチーフをみんなで考えてもらい、各々で切ってもらい、自分が高圧洗浄機で子どもを描き、その子どもが持っているペンの先に生徒たちが作ったステンシルの形をたくさん描くというようなものはすぐに思いついた。そこからクオリティを高めるためにどうしたら良いのかを考えている。(元吉)
- 重要な悩みどころ。クオリティが下がることによる残念さは避けなければ。(会田)
- 子どもたちと一緒にペンキで描くというのは全国でやられているが、やっぱり子どもが描いた絵のクオリティになってしまう。そこから突き抜きたい。(元吉)
- クオリティにはこだわったほうが良い。ただメインディッシュは高圧洗浄機なので、それを触れなかった生徒たちがどのように受け止めるか。難しさを含めて味わったほうが良いという考え方もある。作品と高圧洗浄機で何かを描くという経験とを分けてもいいのかもしれない。一方で、大人びた生徒たちが、一番美味しいところはアーティストがやっているのだという気持ちになったとすると残念。高圧洗浄機で絵を描くのはすぐに身につけられる技法ではないと思うが、グラデーションの美しさが一番の持ち味なので、そのエッセンスを体験できると良い。(会田)
- 生徒たちがステンシルも作って高圧洗浄機も使ってクオリティの高いものができるというのがベストな状態だが、それはなかなか難しい。(元吉)
- 素人と一緒に作品をつくる場合でも、あるトーンを揃えようまくいくという事例もある。建築家遠藤幹子さんがザンビアでマタニティハウスを建築したプロジェクトでは、建物の機能を伝える絵を建物の外側に描くことになったが、絵の具の色を指定して、葉



っぱのスタンプをみんなで押すというワークショップを開くことで全体の雰囲気を一  
した。色や葉っぱの大きさという規格を決めることでイメージのコントロールをする手  
法があるというもので、非常に示唆に富んでいる。(会田)

- 高圧洗浄機を使うと色は一緒になるので統一感を出せる。(元吉)
- ストロークの方向が決まっているとか、技法を定めることでコントロールできる。なん  
でも自由に描いていいとなるとクリエイティビティは宿らない。その辺りを考えられる  
と良い。ただステンシルだけ生徒たちにやってもらって小さなステンシルを組み合わせ  
るといふ案は取っておきましょう。その上で、美味しいところはアーティストがやるの  
かよ、という気持ちにならないようにする方法を考えると良い。(会田)
- 時間はあるのでもう少し考えたい。(元吉)
- 苦しい悩みかただが、結果的にクオリティが高くないとみんなが愛せないということに  
真摯に向き合っているからだと思うので、もう少し悩んでもらいたい。(会田)
- 目的については？(澁谷)
- 子どもたちにこの取り組みでどんな思いを持ってほしいか、何を感じてほしいか、とい  
うところが重要だと思っている。(瀬戸口)
- 子どもたちが、地域の課題を考えるきっかけとして、楽しかったことと、自分たちがこ  
んなにすごいことをしたという実感を持つことが重要だと思っているので、やはりクオ  
リティを高めたい。(元吉)
- クオリティを妥協しないのは絶対に必要。あとは、目的をどの程度まで学校の先生と本  
音で合致できるかというところに分かれ道がある。本質的な意味は、学校の物差しでは  
測れないことを学校に持ち込むこと。学校の先生じゃない人が学校の先生と同じことを  
言うなら意味がない。変な人が来たぞという違和感を残すことを面白がってくれる先生  
もいるので、その場合はそう書けば良いが、みんながそのように思ってくれるわけでは  
ない。なんとか学級崩壊させないように慎重にやってきた先生からすると、アーティ  
ストが入ったことでクラスが荒れてしまうのは困るということもある。その辺りについ  
て腹を割って話しておいたほうが良い。(会田)

#### 市民会館の仮囲いに描くワークショップを設計する

- 市民会館では、小学生と一緒に短い時間で何をするか考えている。クオリティコント  
ロールをどうするかという点では、最初にベースになるものを描いておき、その上に子  
どもたちが描いて、最終的な仕上げは元吉さんがやるのが良いと話していた。その場合、色  
の統一感などが難しく、子どもたちに出来上がったものを見てほしいという気持ちもある  
ので、それをどうしていくかが悩み。(瀬戸口)
- クオリティを高めるには最後に僕が仕上げをするのが良いが、それだと子どもたちが完  
成を見ることができない。参加者全員で完成品と一緒に写真に収まることもできない。  
アウトラインは描いておいて、着色は子どもたちにやってもらい、マスキングを剥がせ  
ば完成というパターンや、好きにペンキで遊んでもらって、最後に白一色で絵を描くパ  
ターンがある。ただ、それだと結局、子どもたちと写真をとることができない。  
(元吉)
- 写真を撮るのは本質的には意味がないので、それが制約になってしまうのはおかしいな  
と思う。仕上げはアーティストがやるということで良い。マスキングという手法は面白  
いので、マスキングの作業を子どもたちがやって、完成品は次にきたときに見てねとい  
うのでも面白いと思う。もう一度親と見に来て、話すということが本質のような気がす

る。「先生」的な観点では最後に写真を撮りたくなるけど、それを目的にしてはダメ。後日、完成したものを見に行った時に、子どもの顔が煌めくところを親が見るということも重要。(会田)

- 言われてみればそうだなという感じ。それなら手法は何パターンかに絞れていて、あとはクオリティの下絵を作るだけ。それは今月中にやらなければいけない。(元吉)
- 学校と一緒にやるとそうなりがち。ワークショップのお土産を求められるが、それは記憶のトリガーでしかないので、別のやり方でトリガーを起こせるのであればお土産がなくても成立すると考えている。(会田)

#### 新たな活動のアイデア

- 指宿の海岸は整備されていて人が集まってくるエリアだが、レンタカーやJRで街を訪れた人が必ず通る道が暗いので、それらの場所をプロットしてアートを置き、盛り上げるイベントができないかと考え始めた。(瀬戸口)
- 面白い。その道のコミュニティのステークホルダーが誰であるかが分かって、地域の人もそれを求めているという形になればうまくいくと思う。(会田)
- 通りの入り口にある旅館には指宿で初めてアーティストとして活動を始めた人の絵があり、最後の砂蒸し会館砂楽にはTOMOSHIBIアートがある。それらを繋いでいきたい。(瀬戸口)
- 地域の人が、アーティストがやりたいと言っているから場所を貸してやるという感じになるとうまくいかない。ステークホルダーを探し、地域の会合などに参加して、これをやってくださいと言われるようになれば良い。(会田)
- 誰と話をすれば良いかはイメージがついている。(瀬戸口)
- 街の人が見ている光景と、観光客の見る光景は違うというのは重要なポイント。公共交通を降りたところのメインの通りが街の玄関口であるという意識が地元の人にはない場合もある。その場所の重要性を共有していくと住民にも新たな気づきがある。そういうやりとりをしていくと良い。(会田)
- 最後に、今は資金調達で困っている。高圧洗浄機メーカーのCSRを調べている。(瀬戸口)

## 2.2.3.6 第5回意見交換会概要 (2021年3月4日 18:00-19:30)

### 進捗報告

- 徳光温泉
  - 管理をされている方と話をしてきた。どこに何を描くかという構成についても全部決まっているような話を聞いていたので心配していたが、そんなこともなく僕らの話を聞いてくれてすごく協力的だったので良かった。徳光温泉への思い入れがすごく強く、こういう方と一緒にやるのは良いなと思っている。(瀬戸口)
  - ただ一つ大きな問題がある。タンクにひび割れがあって温泉が数箇所から漏れていて、絵を描く壁にもそれが漏れ出しているの描くことができないという状況であることが現地に行ってみて分かった。チョロチョロ出ているというよりしみ出ているとよくみると全体が光っているという状態で、高圧洗浄機で描くのが無理なのは元から分かっていたが、ペンキも載せられない。補修しないと描けないということで地区の町の方々が集まって予算の見積もりなどの話をしてくださることになっている。僕たちとしてはすぐにやろうと思っていたが、実施日が決定されるまで待つという状態になっている。(瀬戸口)
- 西指宿中学校
  - クオリティの面から検討していて、前ははまだ全然決まっていなかった。案は出るけど煮詰まっていない状態なので、以前候補の一つとして出していた、子どもがペンを持って何かを描いている姿を僕がまず描いて、子どもたちが将来の夢というテーマで作ったステんシルの形が絵の子どものペン先から広がっているというイメージでとりあえず考えている。美術の授業の3時間をワークショップにするので、構成の大枠だけは作っておいて、今後さらに考えるゴールによってやりたいことが変わってきたら少しずつずらしていくことができるようにしたい。3時間の授業の中で、子どもたちには将来の夢をイラストにしてもらおう。1時間目は僕らの自己紹介的な話をして、2時間目は全員ではないにしても子どもたちに夢を語ってもらい、3時間目は実際にイラストを制作する時間にしたら良いんじゃないかと思っている。サッカー選手であればサッカーボールを描くという感じになると思う。その後、放課後や休日を使って有志の子どもたちに高圧洗浄機での作業などをやってもらおう。(元吉)
  - 計画に余白を作っておいて変化に対応するということが非常に良いと思う(会田)
  - もう少しして4月になったら動き出さなくちゃいけないが、さっき言ったように設計図が全くできていない状態なので、作り込まなければいけないという状態。そのためには最終形がどのようになるかがある程度明確になっていなければいけないがまだ6~7割。元吉くんの中でもう少しできるんじゃないかという気持ちがあるので6~7割の時点でいったん枠を作っておいて、9割になったら変えられるようにしておくのが良いんじゃないかという話をしている。(瀬戸口)
  - 実際に体験したことによって、ワークショップの最後のラップアップのところでメタ視点で話すことが何パターンか考えられる。自分の夢というものを一人称ではなく少し遠くから見ることもできるかもしれないし、サッカー選手になりたいということをボールというメタファーで示すというところに表現としての面白みがあったりもする。例えば浦島太郎の話というのは、メタレベルで言えば自然環境

やフレンドシップの話ができるかもしれない。浦島太郎はダイレクトな話だが、それを通じていろいろなことをメタフォリカルに見直してみるという視点の飛躍、というかある種の破綻と言えるかもしれないが、メタで見直すところに一番面白みがあるのでワークショップをやった後に子どもたちに言う最後のパンチラインも何パターンか考えられる。それについてはワークショップの中からチョイスして言えば良いと思うので、計画に遊びを作っておいて構築していけば良いんじゃないかなと。（会田）

### 市民会館の仮囲い

- ・ 当初の計画では2月中に下絵を完成させることになっていたが、今は7割くらい。（元吉）
- ・ 下絵に関しては、僕は最終的なものを提出したほうが良いかなと思っている。相手が教育委員会で、上の方にまで話が行くので、最初に聞いていたのと最終的にできたものが違うじゃないかと問題になるなど、変な軋轢が生まれないようにしたい。そこについて担当者と話していかなくちゃいけない。（瀬戸口）
- ・ 細かいことを言う人はそうかもしれないし、予算が通ればあとはアーティストが自由にやってくださいと言う人もいるので、担当者次第だと思う。（会田）
- ・ 行政のよくあることとして、20個くらい決裁の印鑑を押していく中でそれぞれの人の好き嫌いみたいなものが出てきて、ある人は絵が暗いと言うし別の人はここに問題があるんじゃないかと言うんです、というようなことを言われて結局アーティストが描きたいものと全然違うものになってしまうのではないかというのが怖い。（瀬戸口）
- ・ 時間がかかっている理由として、メッセージ性を強くしているので、それを全部成立させるために絵のバランスをとらなければいけなくて、そこの最後の3割くらいがうまくいっていない。その説明をちゃんとすれば納得してくれるだろうと思う。（元吉）
- ・ 行政側が責任を回避するためにキュレーターを置くという場合もあるのですが、今回はキュレーターではなく行政の方が直接担当されているということで、不安は少しある。でも慎重に進められているので良いと思う。（会田）

### 高圧洗浄機メーカーへのアプローチ

- ・ 電話をして、いったん僕らの最大限の希望をメールで出すことにして、もちろん高圧洗浄機の支援だけでもありがたいです、ということは伝えた。希望としての活動資金の金額と高圧洗浄機2台の型番も含めて伝えた。昨日返事があって、ご希望はお預かりしましたのでお待ちくださいとのことだった。高圧洗浄機に関しては、感触は悪くないかなと。直近で何か動いていることはありますかという質問をされたので、中学校で4月からやっていくという話をしたら、ちょうどそういうのを進めたいと思っているので、できるかもしれませんということだった。（瀬戸口）
- ・ CSR活動としてアピールできるものを求めているはず。（会田）
- ・ 協賛金の金額はどのようなイメージか。（澁谷）
- ・ 年間35箇所くらいに作品を描くというプレゼンをした。1箇所10万円くらいというイメージで、ざっくりした数字。（瀬戸口）

- 10万円は何に必要なのか。(澁谷)
- ステンシルが必要になると、電気や水道が引っ張れないところには水のタンクや発電機を車に積んでいくことになるので、燃料費などを含めて初期費用がかかる。発電機もなんでも良いわけではなく高圧洗浄機の種類に合わせてスペックを上げなければいけないので、調べた感じだと30万円くらいする。一応このくらいかなという井勘定。(瀬戸口)
- 予算の根拠がありそうなシートを作れるようにしたほうが後々楽になる。(会田)
- それがあるなら良い。アーティストが作品を制作するときは予算に収めようとするので少ない予算でもできてしまう場合が多いが、実際には結構苦しい。ある意味では相手にこのくらいはかかると提示できる、「矛」になるような予算書もあったほうが良いかなと思っていて特に協賛をお願いする時には理想像というか、確かにこのくらいはかかるよねと思ってもらえる予算書というのがあると思う。ずる賢く言うとそういうことだが、それは悪いことではなく、根拠のありそうな予算書の作り方がある。(会田)
- サンプルで、こういう予算書があると良いんじゃないかというのを作っているのが共有する(会田)
- 消耗品が結構多いなという感じになるかもしれない。自治体だとそういう話になる。あとは円グラフを横につけておくと何に何%というのが分かって良い気がする。(会田)
- 一番困るのが、物品協賛だけという形になった上でパートナーになり、他の協賛がもらいにくくなること。(瀬戸口)
- 種類によって高圧洗浄機のノズルの形がそれぞれ少し違って、描きやすさも変わってくるといふ話もしたら、それについても書いておいてくださいと言われたので、こちらとしての最大限の要望を書かせていただいたところ。(瀬戸口)

#### クラウドファンディングによる資金調達

- Clubhouseなどで聞いているとクラウドファンディングも皆さん活用されているが、手数料が高い。指宿のような僻地を応援してくれる人がどのくらいいるのか分からないし、コンサルを入れて獲りにいく仕組みになってきていて僕らだけでうまくいくのか分からなくて躊躇しているところ。(瀬戸口)
- ストーリーとして面白く、一般の人が全く理解できないというわけでもないと思う。応援したくなるストーリーとしては、ブロック塀の持ち主である住民の方が何人か入ってきて、応援してほしいと書いてあると良いかもしれない。アーティストがやるクラウドファンディングとなると、一般の人から見るとアーティストが自分のやりたいことをやっているだけでしょになってしまう。(会田)
- どちらかと言えば地域課題の解決だという。(瀬戸口)
- もしクラウドファンディングをやるとすると、住民の方が立ち上げて、近くにTOMOSHIBIというアーティストがいるので一緒にやっているんだということにすると応援されやすい。(会田)
- 徳光温泉で言うと、地域の愛着がある温泉だがヒビが入っていて、アーティストがいるので絵を描いてもらいたいけど補修費が必要なんだ、というような。(瀬戸口)
- そのほうがゴール率は高いと思う。アーティストがやるクラウドファンディングも増えたら良いなとは思っているが、世の中はアーティストに対して世知辛いよね、というのはアートの世界にいるから分かっている。(会田)

## メディア取材

- 昨日、受賞したことをまだご協力いただいた方に報告できていなかったのも、お礼参りという形で挨拶に回ったが、そこに地元の南日本新聞、読売新聞、KKBテレビの報道の方についてきていただいた。時間にすると2分くらいだと思うが、夕方の番組で流れる。最初に協力していただいたお隣の農家のご夫婦にトロフィーと賞状を持っていただいて4人で撮った写真が、先日のお話で出たキラーフォトになると思っている。(瀬戸口)
- ケーブルテレビによっては、コンテンツ量が不足しているのと同じ番組を何度も流してくれる。同じものが何回も流れると声をかけてもらえるようになったりする。民放の、キー局の番組を流しているところだとそれがない。(会田)
- 地元のラジオ局から僕も元吉くんも取材を受けている。(瀬戸口)
- ラジオは地元のおじいちゃんおばあちゃんが聞いてくれたりするのだから良い。アートの詳しくない人、僕らが想像していない人にどのくらい届くかが重要になってくる。(会田)
- 車に乗っていたり、土日の夕方に聞いていたりする人が多いということがわかった。ドライブしていたら流れてきたよとかいう話を聞いたことがある。前にラジオ番組で5分くらい出演するということがあったが、ノリで2時間丸ごと出てしまったことがあったが、その時はすごく反響があった。(瀬戸口)
- あとは南日本新聞がTwitterで流すコンテンツを欲しがっていたので、制作中のタイムラプス動画を20秒くらいにまとめたものを送った。近いうちに出ると思う。(瀬戸口)

## 今後の課題

- 資金調達
  - 3月までのフォローアップのなかで資金調達の話はしたいと思っている。いくつか方法はあると思うが、まずは今の我々でできることの洗い出しをして、その可能性を探っていくということをしたい。(瀬戸口)
  - ゆかりのある会社の社長さんに会うことができるのであれば、こういうことをやっていてお金が足りないの、借りるのではなく助けてくださいということを正直に言っていくと、20件に1件くらいは話を聞いてもらえるかもしれない。(会田)
  - TOMOSHIBIサポーターというのをやろうと思っている。指宿には大きな会社がなくして市役所が一番大きな会社と言っても良いので、職員から個人で出してもらおうかな。(瀬戸口)
- サポーター・アシスタントの発掘
  - 今は僕と元吉くんの2人で動いていて、かなり時間が限られている中で年間35作品を描くというのは正直できない。そこで第2の元吉くんを作れるかどうかというのが、元吉くんはどう思っているか分からないが僕の中では課題。(瀬戸口)
  - そうかもしれない。そのあたりは2人の中での戦略。TOMOSHIBIというユニットで最終的に求めるゴールは何か。量産することだけがゴールではないと思うので。(会田)
  - TOMOSHIBIは僕らなので、サポーターとして金銭的なサポートや技術的なサポートなどをしてくれる様々な人がいる中で、作業のお手伝いをしてもらおうというのが理想かなと思っている。(瀬戸口)
  - 山口情報芸術センターでは10周年の時にアーティストを3組公募して、市民を集めて説明会のようなものをしたが、集まった聴衆の中から私はこれを手伝えますという人が出てパートナーシップができていった。文化施設がないと難しいかもしれないが、説

明会をやって50人くらいの人に1時間半とか、みっちり活動内容を紹介して、今これが困っているので誰かお手伝いいただけませんか、ということであまく甘えていく方法やルートが作れると良い。(会田)

- サポーター制度ができれば金銭面でも作業のお手伝いでも、元吉くんが描く中でここを全部白く塗っておいてというようなお願いができれば。(瀬戸口)
- 街の人がすごくやりたいと思う。漫画家さんのお手伝いでも、ベタ塗りをやりたいという人もいる。労働力として雇うと何十万円もかかってしまうものがコンテンツになるというか。学校でワークショップを継続的にやっていくと興味を持つ人も出てくると思う。(会田)
- 制作に関わるところで地域の人がいるというのはコンセプトから考えると当然だが、困った時に助けてもらえるアシスタントも見つけられると良い。(瀬戸口)
- 地域でサポートしてくれる人の団体ができるのが理想的。ある種のクラブ活動のように、2週間に1回くらい集まって、作品ができるのはもちろんだが、街の未来について気軽に話せる場ができるというだけでも、地域の人にとっては儲け物。継続的に、少なくとも2年はやるぞというような覚悟があれば続いていくと思う。(会田)

#### 新たな活動

- 菜の花学級という、不登校の中学生を中心に子どもたちが学校の代わりに通えるところがあり、そのソーシャルワーカーさんとお話をした。ピアノが得意な子や絵が得意な子などがいるので、一軒家を借りてそういう子たちの作品を展示して見に来てもらう場を作ろうと想着っていて、そこに不登校の子たちが顔を出すということも目的にしている、作品の展示をどのようにしたら良いかという相談だった。コピー用紙の裏に描いた絵を展示するというようなことだったが、それで良いじゃないですかということや、中にある仏壇などを撤去するのではなく、普通に人が住んでいる家に作品が置いてあるということで良いというような話をした。菜の花学級から100mくらいのところにある、JRの電車の中からも見える小学校の外壁が80mくらいの幅で汚れているのでそこに絵を描いてくれないかという相談が別であったので、そちらもやりませんかという話をしたところ喜んでくれて、一緒にやることになった。(瀬戸口)
- 高圧洗浄機を使って、電車の窓からも見えるところなので文字でのメッセージでも含めるのが面白いのではないかとと思っている。(瀬戸口)

#### ソーシャルメディアを活用した情報発信

- TOMOSHIBIさんのホームページに結構色々乗っているとは思いますが、生のリアルタイムの動きももっとあると面白いかなと。ただの感想だが、今こういうことで動いていますよ、成就是しませんでしたけど、ということもあってもいいのかなと。今見ていて、ホームページには完成したものがほとんど。いつも聞いていてダイナミズムがあって面白いなと思っているので。取材に行ってきましたとかでも良い。(会田)
- 温泉にひび割れがあって、みたいな話があった時に、俺これ直せるよみたいな人が出てきたりすると面白いなと。(会田)
- それ面白い。ツイッターで呟くと良いか。TOMOSHIBIのTwitterアカウントは取ってあるが、完成品がなくて何もつぶやけていなかった。取り入れさせていただく。(瀬戸口)
- そういう投稿でファンがいつも見ている状態になれば、クラウドファンディングですごいエネルギーになる。日常的に追ってくれていれば一から説明しなくて良い。(会田)

- 完成品はホームページで、途中経過はTwitterみたいな。(会田)
- 閉じている世界から開かれた世界にしてみんなを巻き込んでいくというのはあらゆるジャンルで起きているので、ジャーナリズムも地域おこしも。(奥村)

#### 2.2.4 今後のフォローアップの方針

- 来年度実施予定の中学校での授業や市内施設でアート活動の準備を行う。
- アートコンテストへの出展準備を行う。
- 記事での配信・ポッドキャスト等を通じた意見交換会での議論の内容のオープン化や、制作過程の共有をする。



## 2.3 [3] 秋田県：中小企業政策研究会ビジネスモデルカフェ

### 2.3.1 支援対象チーム

プロジェクト名：「エアロバイクで仮想空間ライブマラソン！」

所属・チーム名：中小企業政策研究会ビジネスモデルカフェ

自治体：秋田県

受賞：コンテスト2020・優秀賞（大学生以上一般の部）

#### 対象チームのアイデア概要

秋田県の観光資源を活用したオンラインスポーツツアリズムの提案。エアロバイク運動を仮想空間上のランニングとして再現することで、全国同時に多人数が参加できる仮想空間ライブマラソンを実現する。

### 2.3.2 RESASの活用状況

広域的な地域課題の把握のために、RESASを活用して人口推移、地域経済環境分析、付加価値額の分析・可視化を行っている他、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響分析として、V-RESASの県別宿泊者数（前年同月比）の分析を行なっている。これらのデータ分析を通じて、チームが提案するプロジェクトの意義を、地域経済の中に文脈づけることができている事例と考える。

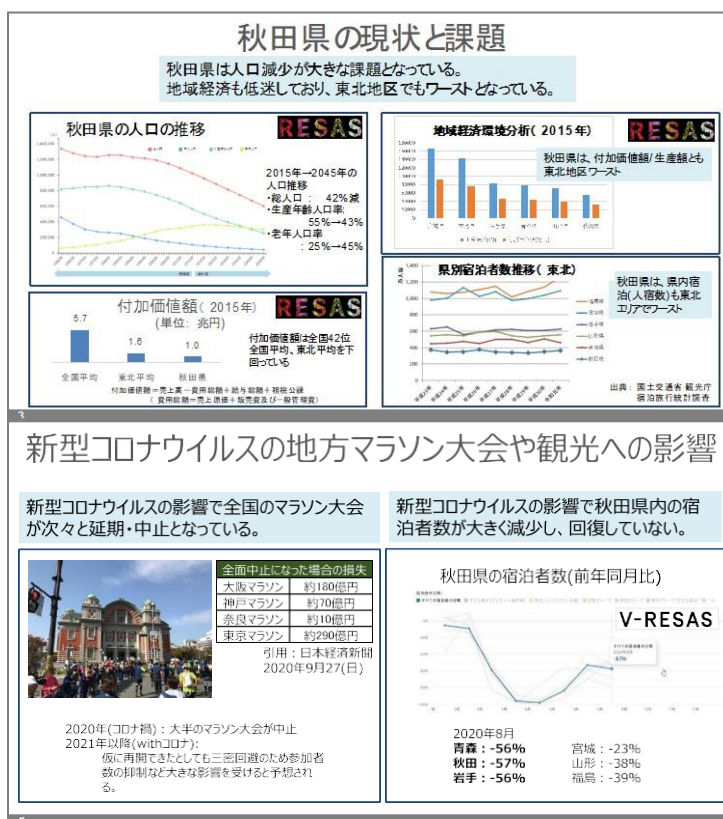


図 7 RESASおよびV-RESASの活用状況（コンテスト時の発表資料より）

## 2.3.3 実施内容

### 2.3.3.1 ヒアリングと意見交換会の概要

ヒアリングと意見交換会の実施概要を次の表に示す。

表 5 秋田県ヒアリング兼意見交換会概要

実施日	実施内容	参加者
2021年2月17日(水) 20:00-21:00	ヒアリング兼第1回意見交換会	秋田チーム：木下様、江口様、北濱様、小薄様、酒井様 内閣官房：宇野様、菱沼様、星野様 OGN：奥村、澁谷、井上、劉
2021年3月3日(水) 20:00-21:00	第2回意見交換会	秋田チーム：木下様、江口様、北濱様、小薄様、酒井様 内閣官房：宇野様、菱沼様、星野様 OGN：奥村、澁谷、井上、劉
2021年3月18日(土) 20:00-21:00	第3回意見交換会	秋田チーム：木下様、江口様、北濱様、小薄様、酒井様 内閣官房：宇野様、菱沼様、星野様 OGN：奥村、澁谷、井上、劉

(以下、敬称略)

ヒアリングおよび第1・2回意見交換会の結果概要について以下にまとめる。

### 2.3.3.2 第1回秋田県ヒアリング兼意見交換会概要(2021年2月17日20:00-21:00)

#### 現時点での進捗

- ・ 市販の数千円のケイデンスセンサやスピードセンサに取り付けることでセンサーの情報を簡単にスマートフォンやPCに転送できることを確認した。
- ・ コース動画を作成している。画面にはコースの全体図と距離、ケイデンス、速度が表示されるようになっており、自分の動きと連動して楽しんでもらう。AndroidおよびiOS用アプリを開発中であり、すでに連動はできている。さらにどのような付加価値をつけられるかのアイデア出しをしている段階である。

#### 他のサービスとの差別化

- ・ ZwiftやFulGazなどの既存のアプリ・サービスとの差別化が可能なポイントは地域の観光資源の発信だと考えている。何を訴求できるかに関する検討が必要。
- ・ 例えば、マラソン大会を実施することで地元の住民と交流する機会を設け、両者が楽しめるようなコンテンツを作成することをコンペで提案してきた。
- ・ 映像に関しても、地域の人が紹介したい町並みなどの動画を集めて、撮影者には少額の使用料が入るなどの仕組みの部分で差別化を図りたい。
- ・ 現時点では観光名所の高品質な動画を撮影する方法を考えている。
- ・ フィットネスバイクの主な利用者が高齢者であれば、自分でセンサ等をセットしてカスタマイズするのではなく、買えばそのまま使えるというほうが良いかもしれない。また、Zwift

などの既存サービスの利用に必要なユーザ登録も高齢者にはハードルが高い。

- 差別化のための機能をどのように選択し、どの順番で実装するかを決める必要がある。

#### マイルストーンの設定

- フィットネスバイクの開発が必要になるためフィットネスバイクを販売している小売業者へプレゼンテーションをすることを一つのマイルストーンにするという考え方がある。

#### チームの体制強化とフォローアップの方針

- 秋田県藤里町では商工観光課の方やDMOの方にアイデアを伝え、非常に面白い取り組みなので実現してほしいという声をいただいているが、行政に対しては現時点ではペンディングの状態である。
- 推進のための体制づくりが必要。興味を持ってくれる人、ファンとなる人を集めるためにもまずはプロトタイプを作り、それを旗印にしてテックマニアや自転車ユーザを取り込めると良い。

### 2.3.3.3 第2回秋田県意見交換会概要 (2021年3月3日 20:00-21:00)

#### 現時点での進捗報告

- 競合分析・差別化方針・事業化の方向性 (木下)
  - Zwiftはトレーニング向けで、アプリの性能は高いがCG。
  - FulGazなどの実写映像を使っているサービスは「実在する場所に行って走っている」という説得力はあるが、ペダルの動きと連動していないなどの動画の品質の点で問題があるように見える。ユーザもコース動画をアップすることでコースのバリエーションを出しているが品質のばらつきが大きいように見える。
  - 差別化の方針としては、
    - 没入感が得られる質の高い動画アプリを作る
    - コンテンツ重視、自分の足で観光地を巡っている到達感
    - 撮影編集のノウハウを確立して質の高い動画が集まるようにする (地域の観光関係者と連携して質の高いコンテンツを作成) が考えられる。
  - 最初の動画案は、東京マラソンの名所や古刹などを想定。
  - 既存サービスでは動画があまり編集されていないように見える。
  - Zwift対応フィットネスバイク「HITFIT」のクラウドファンディングでは今のところ1,500万円以上集まっている。Zwiftのような本格的なロードバイクではなくフィットネスバイクからコース動画アプリを楽しむニーズはあることが伺える。

#### 動画撮影機材

- GoPro、自転車用マウント、サイクルコンピュータ、スマートウォッチ、ケイデンスセンサ、スピードセンサを使用している。(動画、撮影中の位置、スピード、ケイデンスを取得)

#### フィットネスバイクとセンサの準備

- Amazonで注文したフィットネスバイクを自分で組み立ててみた。フィットネスバイクの想像以上に重いと感じた。高齢者の中には組み立てや設置が難しいと感じる人がいそうだ。
- ケイデンスセンサはクランクの根元にゴムバンドで取り付ける。数秒で取り付け可能で、設置スペースは120cm×60cm。
- 他社のサービスはパワーメーター/トレーナーの使用を前提としているが、これらは15万円程度と高額で、設置スペースも最低200cm×60cm必要。普通の日本の住宅では難しいのでは

ないか。

### 開発用サーバの構築

- 開発PC上の仮想化環境（Hyper-V）上に動画配信サーバとDNSサーバを構築。
- 開発用ドメインとサーバ証明書を取得。

### アプリ開発環境の構築

- MacBook上でAndroid StudioとXcodeを用いてAndroid向けとiOS向けを開発。
- 開発言語はFlutter、Dart

### プロトタイプの開発

- 周囲のケイデンスセンサを探索し、一覧表示する。センサを選んでConnectを押すと画面が遷移する。コース選択画面は今後実装予定。
- ケイデンスセンサからのデータを受信し、速度・移動距離を計算する。（今は1回転4.0mで計算しているが、今後は機種に応じた調整や機械学習の利用を想定している。）
- ペダル速度に応じて動画のスピードを調整する。（今は撮影速度を時速12kmと仮定しているが、今後は実際の撮影速度を計算し反映させる。）
- まだ音楽が途切れ途切れになったりしている。BGMの音声が遅くなったり速くなったりするところは改善の余地がある。

### 今後の課題（木下）

- デモ動画のバリエーション拡充
  - そのためには撮影・編集マニュアルを整備する必要がある。
- システム基本機能の実装拡充
  - デモを作る中で課題として上がってきているところの実装が必要である。
- クラウド上に配信サーバを構築
  - 今は費用を発生させないために自宅のサーバを使っているが、今後はクラウド上に構築したい。
- アプリのα版の配布準備
  - App storeやGoogle Play storeへの配信を準備する。
- 動画品質向上機能の開発
  - 品質基準の検討が必要である。（信号待ち、人物の映り込み、撮影トラブルなど）
  - 歩行者にぶつかりそうなシーンなどをできるだけ排除したい。
  - 品質を上げるための自動チェック機能を機械学習で作れないか検討していきたい

### ビジネスモデルと法人化

- 最終的にはライブマラソン大会を実施したいが、いきなり多くの人が同時に参加できる大型のシステムを開発するのはリスクが高い。そのためまずはシングルユーザー向けのアプリを開発することから始める。
- 既存サービスとの差別化のためにはコンテンツの品質が重要。コースについても新しいものを次々に公開しないと飽きられてしまうのではないか。どこまで効率よく充実できるか。プロではないユーザにも映像を提供してもらうとなると、映像のクオリティの基準を示す、映像の提供に対してリターンを与えるなどについても検討が必要。
- 法人化して開発費を集めていきたい。どのようなメンバーでやっていくのかについて考

えていく。

#### フィットネスバイク小売業者へのプレゼン内容の検討

- 小売業者とのwin-winな関係を示すことができるか。高齢者はバイクの設置が難しく、ワンパッケージでないと厳しい。通信販売を主とする小売業者であれば大型家電の設置までサービスに含んでいるケースもあるので、そこが強みになるのではないかな。

#### 今後の方針

- 事業展開のために通信販売事業者と協力することのメリットがどこにあるのかを考えるにあたって、ユーザへの聞き取りをする必要がある。どの程度の価格なら買ってくれるのかというところを聞いて、ニーズの掘り下げをやっていくと良いのではないかな。

#### 2.3.4 今後のフォローアップの方針

- フィットネスバイク小売業者へのプロジェクトの提案プレゼンを行うための準備を行う予定。

## 2.4 [4] 福島県：加登屋酒店&しんきん地方創生サポーターズ

### 2.4.1 支援対象チーム

プロジェクト名：「酒屋のおばちゃんとするオンラインツーリズムの支援と実践」所

属・チーム名：加登屋酒店&しんきん地方創生サポーターズ

自治体：福島県

受賞：コンテスト2020・優秀賞（大学生以上一般の部）

#### 対象チームのアイデア概要

人口減・高齢化が進み、さらにコロナ禍で観光客も激減するなか、オンラインで消費を促す仕組みを地方発で作成し、外出が難しい都市からの参加者とともに「密な体験」ができるオンラインツーリズムの実践を提案。多様なオンラインイベントの横展開を目指す。

### 2.4.2 RESAS の活用状況

地域課題の把握のために、RESASを活用した将来推計人口の分析・可視化を行っている他、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響分析として、V-RESASの県外からの滞在人口の動向とインターネットによる飲食店情報の閲覧数の分析を行なっている。これらのデータの可視化を通じて、チームが仮定した地域課題の背景や現状に関する裏付けを行なっているほか、提案するプロジェクトの意義を、地域経済の中に文脈づけることができている事例と考える。

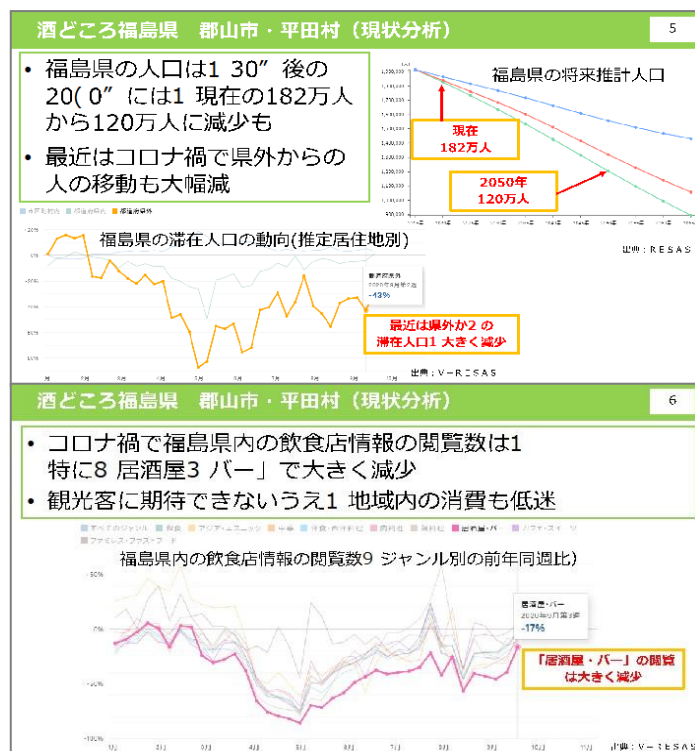


図 8 RESASおよびV-RESASの活用状況（コンテスト時の発表資料より）

## 2.4.3 実施内容

### 2.4.3.1 ヒアリングと意見交換会の概要

ヒアリングと意見交換会等の実施概要を以下に示す。

表 6 福島県ヒアリングと意見交換会概要

実施日	実施内容	参加者
2021年1月21日(水) 16:30-17:30	ヒアリング 兼第1回意見交換会	信金中央金庫：片岡様、井上様 内閣官房：宇野様、菱沼様、星野様 OGN：奥村、澁谷、井上、劉
2021年2月3日(水) 17:00-19:00	第2回意見交換会	信金中央金庫：片岡様、井上様、藤村様 加登屋酒屋：石井様 内閣官房：宇野様、菱沼様、星野様 アドバイザー：酒井様、太田垣様 OGN：奥村、澁谷、井上、劉
2021年2月9日(火) 20:00-22:00	オンラインイベント 講習会1	信金中央金庫：片岡様、井上様、藤村様 アドバイザー：酒井様、太田垣様 OGN：奥村、澁谷
2021年2月16日(火) 20:00-22:00	オンラインイベント 講習会2	信金中央金庫：片岡様、井上様、藤村様 アドバイザー：酒井様 OGN：澁谷
2021年2月23日(火) 20:00-22:00	オンラインイベント 講習会3	信金中央金庫：片岡様、井上様、藤村様 アドバイザー：酒井様、太田垣様 OGN：澁谷
2021年2月26-28日	動画収録 (福島県郡山市内)	地域力活性化研究所 信金中央金庫：片岡様 加登屋酒屋：石井様 その他ご出演者の皆様 OGN：澁谷
2021年3月2日(火) 18:30-20:30	オンラインイベント	信金中央金庫：片岡様、井上様、藤村様 加登屋酒屋：石井様 OGN：奥村、澁谷
2021年3月6日(土) 19:00-21:00	オンラインイベント	信金中央金庫：片岡様、井上様、藤村様 加登屋酒屋：石井様 OGN：奥村、澁谷 その他イベント参加者の皆様

(以下、敬称略)

ヒアリングおよび第1・2回意見交換会の結果概要について以下にまとめる。

### 2.6.3.2 ヒアリング兼第1回意見交換会概要(2021年1月21日16:30-17:30)

#### アイデアの概要及び近況説明(片岡)

- コロナ禍の中で何かしなければと考えていた中で、オンライン飲み会が世の中で広まっているのを知り、叔母(石井さん)が酒屋を営んでいるのでそれを利用してイベントを始めようと思った。




- 次回は3月6日に福島県天栄村の酒蔵の方を招いたオンラインイベントを企画している。石井さんが、頑張っている酒造会社の女性を取り上げたいとのことで探してきた。
- これまでに3回実施する中でフォーマットは固まってきたが、考え方が固定されてきてしまったので次の展開に悩んでいる。

提案① オンライン利酒会の実施
11

- **オンライン利酒会を試行的に2回実施**
- **郡山市3 平田村の日本酒を参加者あてに事前送付**

- **蔵元のゲスト参加**  
蔵元自らが木桶を使った伝統的な製法で作ったおスス”のお酒2 美味しい飲み方を紹介するなど日本酒好きにはぜいたくなひと時
- **酒造りの動画放映**  
酒造り2 蔵元の感謝祭の様子を動画放映し2 蔵元の酒造りへの熱意が伝わる会に
- **ビデオ会議システムの練習**  
個別練習などオンラインならではの準備も必要
- **2 回試行的に実施済**  
7/45 仁井田本家2 9/2) 5 若清水酒造  
参加費は1人(,000円

オンライン利酒会の様子



銘柄ごとに美味しい飲み方を紹介




図 9 オンライン利酒会の様子（コンテスト時の発表資料より）

#### フォローアップチームからの質疑

- イベントの内容及び運営に関して
  - 1回目は酒蔵の方にお話をさせていただいた。2回目は旅行形式で、酒屋を出発して地域を回るという設定で、温泉旅館や道の駅、酒蔵の方に登場してもらった。3回目は民謡講座を実施した。
  - 次回（4回目）は天栄村を紹介し、人口の少なさなどをクイズ形式で体感してもらう。
  - 参加者は酒屋のお客さん、商店街・商工会の皆さん、ご近所の方、プロジェクトメンバーの友人など各回30名程度。地元の方と遠方からの参加者はほぼ半々。
  - 3分の2程度は固定客。他の参加者と交流したいとの意見があり3回目には自由に交流する機会を設けた。参加者の地元のお酒の話や民謡の話などが出ている。
  - 石井さんが発送を担当しているが、注文を聞いてもメモを取り忘れるなど、うまくいかないことがあったので片岡さんが遠隔でサポートしBASEでオンラインショップを作った。
  - 石井さんを近くで手伝ってくれる人がいると良いが、人をお願いをすると迷惑がかかるのではないかと懸念してなかなか頼むことができていない。
- イベントの効果に関して
  - 郡山市田村町（加登屋酒店が立地するエリア）の皆さんが加登屋酒店に集まるようになってきた。
  - 仲間が増え、町が少し元気になってきた。
  - 石井さんが元気になった。小学校教師をしていた時代の教え子など、疎遠になっ



ていた人にも声をかけられるようになった。

- 今後の活動方針及び目標に関して
  - 活動の最終的な目標は、酒屋を情報発信基地として田村町（谷田川地域）を元気にすること。昔はとても栄えていた。
  - 参加者を増やしたい気持ちと、少人数で絆を深めていきたい気持ちの両方がある。
  - 加登屋酒店でのイベントは今までのような少人数で行うのが良いと考えているが、一方で同様のイベントを開きたいという声がかかっており、他の地域では100~200人を集める大規模なイベントを開くことも考えられる。
  - 加登屋酒店についてはイベントのフォーマットが確立してきているので、別の場所で次の酒屋を支援したいという気持ちが強い。
  - パンデミック後には実際に集まりたいという声も出てくると思われる。加登屋酒店は人が集まれる場になってほしい。
- 当面の方針
  - まずはオンラインイベント実施上の工夫について詳しい方々（酒井さん・太田垣さん）にアドバイスをいただく機会を設ける。
  - 最終的にはオフラインでの取り組みを含めて検討する。

### 2.6.3.3 第2回意見交換会概要（2021年2月3日 17:00-19:00）

#### 現段階の課題

- イベントの案内やチラシなどについて、コンテンツとなるものと作成するためのツール、発信のプラットフォームについて悩んでいる。
- 今までイベントの中で示した動画は既存の地域観光局などで作った映像を借りていたが、今後どのような動画をどうやって作っていくのかについて考えている。そして今の担当者はもうボランティアを続けることはできなくなる。

#### アドバイス

- ターゲットを絞って、そのようなターゲットが最もいそうなところ、最もリーチしやすい発信がいい。例えば現地の人をメインのターゲットなら紙のチラシがリーチしやすい。イベントサイトを利用するなら、Peatix, compasssなども利用できる。
- 映像配信について、参加者の希望を把握した上でコンテンツを考えるが重要です。例えば日本酒好きな方は多分醸造のプロセスに興味を持っていて、そのような独特なものを固定的なコンテンツにする。工場見学をLiveで見せてQ&Aも対応しながら説明するのもいい。また、固定カメラで映像を撮り続けることで、コンテンツは十分ある。
- 機材について、必ずパソコンやプロのカメラが必要ではなく、スマホでも十分できる。
- 集客の方法について、今の段階では全部やってみて、アンケートやイベント中の話で、異なる方法の効果を把握する。Facebookでイベントを立ち上げて参加者を募集するのも良く、来る人だけではなく、参加意欲も把握できる。
- オンラインのイベントは実のイベントを簡単にネット上に移すではなく、伝え方の工夫

が大切です。いい動画はクオリティだけでなく、独特な体験が求められる。地域や店ならではの特色をアピールできれば魅力的。

- 各種取り組みの効果のデータをアンケートなどの方法で把握して、次の改善につなげる。

#### 当面の方針

- 次回イベントまで、FBイベントやFB Liveなどを試す。
- 受賞チームとコラボレーションして横展開を考える。

#### 2.4.4 今後のフォローアップの方針

- オンラインツーリズムを軸とした横展開と、コンテンツの拡充、協力・連携団体・個人の確保を行う予定。

## 2.5 [5] 長野県：諏訪市産業連携推進室

### 2.5.1 支援対象チーム

プロジェクト名：「コロナに打ち克つ！頑張る諏訪酒蔵のPR」

所属・チーム名：諏訪市産業連携推進室

自治体：長野県

受賞：コンテスト2020・ビザ・ワールドワイド賞（地方公共団体の部）

#### 対象チームのアイデア概要

新型コロナウイルス感染症対策のため開催できない、毎年恒例の日本酒蔵巡りイベントの代替策として、諏訪市内複数酒造の動画プロジェクトとオンライン利酒会のプロジェクトを始めた。今後はイベントの主催者である地元商工会と市役所との連携を強化し、オンラインイベントや通信販売などのプロジェクト展開を検討する。

### 2.5.2 RESASの活用状況

チームが取り組む課題の背景を把握するため、RESASを活用して日本酒製造事業所の地域経済でのポジショニングを可視化している。さらに、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響による対面形式のイベント実施に向けた課題を、V-RESASのイベントチケット販売数や宿泊数の前年同月比の推移、観光客数の推移などの可視化を用いて分析を行っている。プロジェクトの目的である日本酒の顧客とのオンラインでのつながりの醸成の必要性や意義を、これらのデータを使って、地域経済の中に文脈づけることができている事例と考える。

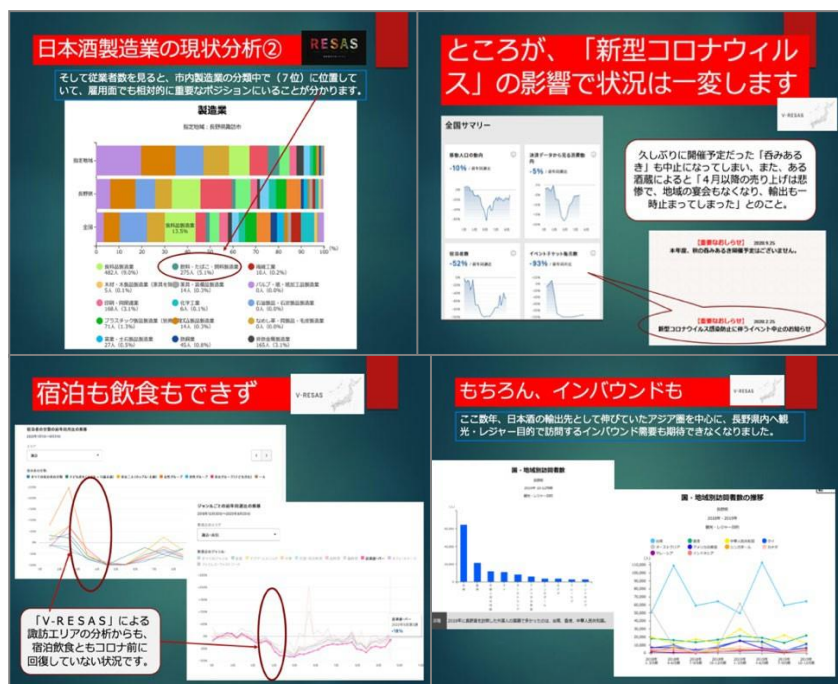


図 10 RESASおよびV-RESASの活用状況（コンテスト時の発表資料より）

## 2.5.3 実施内容

### 2.5.3.1 ヒアリングと意見交換会の概要

ヒアリング兼意見交換会の実施概要を次の表に示す。

表 7 長野県諏訪市ヒアリング兼意見交換会概要

実施日	実施内容	参加者
2021年2月5日(金) 13:00-14:00	ヒアリング兼意見交換会	諏訪市：茅野様、藤森様 内閣官房：宇野様、菱沼様 OGN：奥村、澁谷、井上、劉

(以下、敬称略)

ヒアリングおよび意見交換会の結果概要について以下にまとめる。

### 2.7.3.2 ヒアリング兼意見交換会概要 (2021年2月5日 13:00-14:00)

#### 今後の方向性

- 具体的に何をするかというところまでは至っていないのが実情。酒蔵が500m圏内に集中しているという特性があり、20年近く飲み歩きツアーを実施してきた。2,000人程度が参加する人気イベントだが、参加者が多すぎて危ないという問題があった。国道を止めて実施することになっていたが、コロナ対策で中止に。今年10月に実施できればという声は出始めているが、まだ復活の見込みは立っていない。
- 「Miss SAKE」の方が、その肩書がなくなっても活動できるとのことなので、活躍の場が作れないかと考えている。
- 活動の広がりという意味では、海外向けに諏訪ブランドとして発信していくことができると考えている。すでに海外展開しているところもあるが、日本酒の国内市場は頭打ちなのでさらに広げていきたい。

#### アイデア実現に向けた体制・市の関わり方

- 酒蔵の方や飲み歩きの実行委員会が中心。実行委員会のメンバーは商工会議所や様々な事務所の方々。
- 諏訪市の関わり方としては、民間の自走が望ましいと考えているので観光面でのPRが中心。再開に向けては一緒に対応する必要があると思っているが、あくまでも民間の方が主導なので具体的には動きづらい。RESASコンテストではデータ分析と課題設定を担当した。

#### 海外展開について

- 海外に販売する上でオンラインイベントは効果的かもしれないが、言語の問題がある。
- 輸出に関しては、認証手続きの大変さや、日本の各地方からの売り込みが激しいが相手国からすると全くわからないという問題があり、思うようにはいかないのではないかと。

- 国によって売り込みのアプローチに差をつける必要があるので、どの国をターゲットとするか決める必要がある。

#### 2.5.4 今後のフォローアップの方針

- 地元商工会や市役所の連携を強化しオンラインイベントや通信販売等のプロジェクトの展開などを検討する予定。

## 2.6 [6] 石川県能登町：能登町×北陸財務局×興能信用金庫チーム（2019年度受賞）

### 2.6.1 支援対象チーム

プロジェクト名：「WAKUWAKUの一とコンソーシアム」  
 所属・チーム名：能登町×北陸財務局×興能信用金庫チーム  
 自治体：石川県能登町  
 受賞：コンテスト2019・優秀賞（地方公共団体の部）

#### 対象チームのアイデア概要

地域課題を解決する担い手の育成や企業の誘致を進めるために、(1)スタディツアーで能登町に関心のある企業との接点を設けたり、(2)企業の課題解決型人材研修を誘致するとともに地元の若者がともに参加したり、(3)企業のサテライトオフィスやリモートワーカーを誘致することを目指している。本年度は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、ワーケーションの誘致に力を入れて取り組んでいる。

### 2.6.2 RESASの活用状況

地域課題の基礎資料として、RESASの年齢階級別純純移動数、人口推移、主要産業別就業者平均年齢、地域経済循環図などを用いている。これらのデータを用いて能登町が抱える課題の全体像を示している。さらに、能登町で実施した中学生を対象としたアンケート結果を組み合わせることで、RESASで明らかにした人口減が進んでいる現状に対し、地元の若者がどのように将来を描いているかを効果的に関連づけて論じることができている。RESASを用いた地域の現状の把握と収集データによる将来予測の有効な橋渡しを行いそのギャップを埋めるために取り組むべき事項などを効果的に位置付けることができている事例と考える。

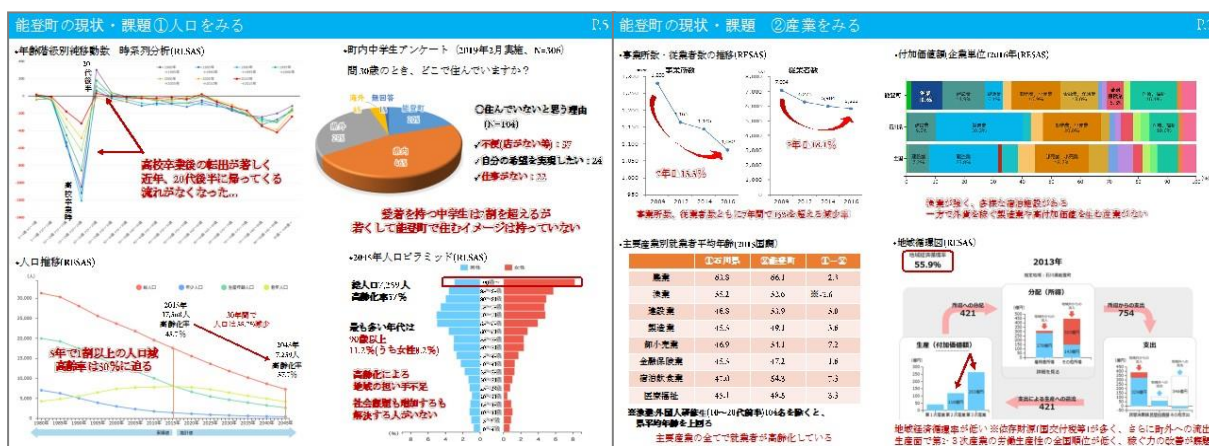


図 11 RESASの活用状況（コンテスト時の発表資料より）

## 2.6.3 実施内容

### 2.6.3.1 意見交換会の概要

意見交換会の実施概要を次の表に示す。

表 8 石川県能登町ヒアリング兼意見交換会概要

実施日	実施内容	参加者
2020年12月8日(火) 15:00-16:15	第1回 意見交換会	石川県能登町：灰谷様、蛸島様 北陸財務局：小林様 興能信用金庫：松本様 内閣官房：宇野様、菱沼様 OGN：奥村、澁谷、井上、劉
2021年3月10日(木) 13:00-14:00	第2回 意見交換会	石川県能登町：灰谷様、蛸島様 OGN：奥村、澁谷、井上、劉

(以下、敬称略)

第1回意見交換会の結果概要について以下にまとめる。

### 2.8.3.2 第1回意見交換会概要(2020年12月8日15:00-16:15)

#### アイデアの近況説明(灰谷)

- 「ワーケーション2.0」という考え方を取り入れた。これまでの取り組みでは、大学生を受け入れた集落や事業所で共創が生まれ、新しいチャレンジ・ものに結びついている。外部人材(旅する人)と共創すると新しい価値が生まれるのではないかという仮説を持ち、そのツールとしてワーケーションを活用する。
- 東京大学FSプログラムでの経験から外部人材との共創から新しい価値が生まれることを実感した。プログラムでは、町でイカの伝統料理が食べられなくなってきたことから、商品化して次世代にその味を繋ぐべきではないかとの意見が出た。学生からクラウドファンディングを活用して一緒にやりましょうか?という提案があり、実行に移したことで商品化に繋がった。さらに、地元の酒造会社の協力を得て、イカに合うお酒の開発にも発展した。「どうせ無理」から「きっとできる」へ集落の人々の考え方が変わった。学生だけでなく社会人に広げるためにはワーケーションが良いのではと考えた。
- 観光協会が主導するのではなく、共創を生み出すための場としてコンソーシアムを設立した。受け入れ体制に関しては町内の企業と一緒にやっていくことができないか考えている。ワーカーに関しては首都圏のプロボノ団体(ZESDA)を通じてニーズ調査を進めている。

#### フォローアップチームからの質疑

- ワークーションに関して
  - 昨年度の段階では「のと未来会議」を絡めたスタディツアーの実施を考えていたが、今年6月頃にワークーションとそのアイデアが結びつくという話になった。その後、全国の自治体関係者が参加するワークーションの研修を受けた際にも  
「旅を通して学びつつ働く」という話を聞き、三者を絡めることができるとの気づきを得た。
  - 受け入れの単位としては個人/企業の両方を考えている。ワークーションの誘致で先行している和歌山県では企業の人材研修プログラムとしてのワークーションの導入を打ち出しており、もともとのアイデアである企業研修とも合致していると考えている。
    - 地元企業にはまだほとんど声掛けをしていないが、第3セクターで町内4箇所の宿泊施設を運営されている方にはチームに入ってもらっている。また、町内で唯一の鍛冶屋と一緒に体験プログラムの作成を進めている。
    - 町内の既存の施設に3泊程度の短期間で滞在してもらうことを考えているが、プロボノ団体の方が町内の宿泊施設で実際にリモートワークを体験してみたところ、ネットワーク接続、決まった時間以外に食事ができる環境、デスクワークに適した設備、バッテリー等の機材の貸し出し等の面で課題があることが明らかになった。また、関係人口となることを見据えて町の暮らしを体験するのであれば地元の人との交流の機会を設けるべきとの意見も出た。
    - 「能登町では何か新しいことが生み出せる」という環境を作っていくことが重要であり、そのためにも首都圏で働く人に能登町における出番と居場所を作りたい。プロボノ団体の方にキャリア教育として講演してもらうなどの取り組みを行ってきた。プロボノ団体のネットワークを通じてロコミで能登町の取り組みを広げてもらい、ワークーションが移住/定住のきっかけ、ビジネスのきっかけ、サテライトオフィスの誘致といったことに繋がっていくことを期待したい。
    - 対象となる職種はプロボノ団体のメンバーも多いIT系をメインで考えているが、今後どのような業種を対象としていくのかは重要なポイントであり、ニーズ調査を委託している段階。これから絞り込んでいく。
    - 「旅に学びがある」ということも学術的に明らかになっているとは言えないため、それを実証することも考えており、関係する企業と検討中である。
    - ワークーションを推進する全国の自治体で構成される協議会があり、120あまりが参加している。7月に能登町も加盟した。近隣では、七尾市が温泉を生かした観光色の強いプログラムを国の予算を使って実施している。ゆくゆくは連携を視野に入れているが、まずは町内の仲間を作ってから。役場だけが先走るといことがないようにしたい。
- アイデア実現のための体制に関して
  - 信用金庫では、人口減少に伴い縮小する地域経済を今後も維持していくためには、域内で完結するだけでは難しく、域外から稼ぐ必要があると考えている。域外から地域にお金を落としてもらう方策を域内の人だけで考えることは難しいため、訪れた人々と一緒に考える仕組みができると良い。副業として関わってもらおうと域外の人に支払う報酬の問題があるため、一緒に地域を作り上げていくという関



係を構築したい。金銭以外で自分の欲求を満たすものが能登町にあるかどうか、思いや悩みを解決する場や活躍できる場を提供していくことが大切だと思っている。具体的な仕組みはこれからだが、金融の側面から取り組みを進めていきたい。

- 北陸財務局では、組織として予算を持っていない中での地方創生の取り組みへの関わり方のモデルとして考えている。「のと未来会議」などに参加してきているが、取り組みが持続可能となるために、特に能登町やコンソーシアムが困っている時にお手伝いができるようにしたい。そのために様々な事例を調査し、提案ができるようにしていきたい。
- 最終的な目標とそれに向けた今後の取り組みに関して
  - 最終的には、企業が「良い人材がいるから」という理由で能登町に進出するようにしたい。このまま高齢化率が上がり人口が減少していくと、住民がこの町に住んでいて幸せだと言えるかどうか。企業が進出してくることでそれを変えたい。
  - 人間は環境が変わると発想も変わるものなので、そのことを意識して都会の人のニーズを喚起すると良いのではないか。例えば、能登町では普段より自由に物が言える、発想が豊かになる、等。そういう環境を提供している場所だと発信することで、地元の人でも都会の人から見た町の魅力に気づく。
  - 全体的な目標設定については議論してきたが、それを分解して具体的なタスクを洗い出すところがまだできていない。今年度のフォローアップとして、まずはタスクの洗い出しや工程への落とし込みを目的としたワークショップ企画をOGNで立てて、町役場の担当部署の方々も含めて実施する。目標をタスクに分解していく際の視点として、財源の根拠づけを含めたビジネス的な部分や、プロジェクトマネジメント等を取り入れたワークショップとする。

#### 2.6.4 今後のフォローアップの方針

- 地元住民の参加を促す仕組みや仕掛けの作り方の検討や、ワーケーション事業の具体的な施策の検討を行う予定。

## 2.7 [7] 徳島県那賀町：徳島県地方創生局地域振興課（2019 年度受賞）

### 2.7.1 支援対象チーム

プロジェクト名：「藍染めと花のコラボレーションによる地域農業の活性化」

所属・チーム名：徳島県地方創生局地域振興課

自治体：徳島県那賀町

受賞：コンテスト 2019・優秀賞（地方公共団体の部）

#### 対象チームのアイデア概要

徳島県那賀町は昔から農業や林業が盛んでいた地域であるものの、近年農業経営者の高齢化が進んでいる。地域農業の維持発展を図るために、那賀町の特産花きのコワニーを徳島独特の「阿波藍」で染めて、花き市場での持続的な競争優位を図り農家所得の向上につなげることを目指している。

### 2.7.2 RESASの活用状況

RESASを用いて、徳島県中町の農業物販売金額帯別の経営体の割合、農業経営者の年齢構成、農業産出額などの可視化・分析を実施している。これらのデータを用いることで、チームが取り組むプロジェクトの地域経済での位置付けと意義を明確に示している事例と考える。

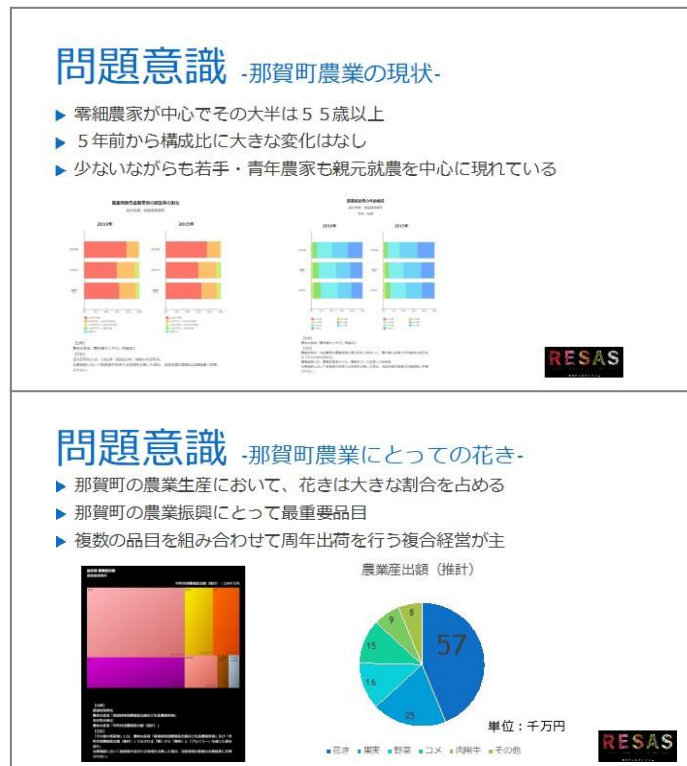


図 12 RESASの活用状況（コンテスト時の発表資料より）

## 2.7.3 実施内容

### 2.7.3.1 意見交換会の概要

意見交換会の実施概要を次の表に示す。

表 9 徳島県那賀町ヒアリング兼意見交換会概要

実施日	実施内容	参加者
2020年11月28日(火) 14:00-15:30	第1回 意見交換会	徳島県那賀町：南賀様 内閣官房：菊田様、宇野様、星野様 官民連携事業研究所：晝田様 OGN：奥村、澁谷、井上、劉
2021年3月12日(金) 13:00-14:00	第2回 意見交換会	徳島県那賀町：南賀様 徳島大学関係者の皆様 OGN：奥村、澁谷、井上、劉

(以下、敬称略)

第1回意見交換会の結果概要について以下にまとめる。

### 2.9.3.2 第1回意見交換会概要 (2020年11月28日 14:00-15:30)

#### アイデアの概要紹介 (南賀)

- 農業の担い手が不足しているものの短期間で劇的な増加を期待することは困難であり、まずは花きを中心とした既存の農業生産を維持するためにも稼ぐ力のある農業を推進する必要がある。
- 稼ぐ力とは持続的な競争優位を保つことである。既存の生產品目を生かして相乗効果を生むことに加え、他の産地が真似をすることが困難であることがポイントとなる。
- コワニーは採花後の日持ちがするので長期間楽しめるという特徴があり、また使用シーンに固定イメージが少ないため自由度が高くポテンシャルが高いと考えた。
- 以上の観点から、町の代表的な生產品目であるコワニーを藍染めでカラーリングするアイデアを提案した。
- 出荷量・販売単価ともに減少傾向にあったが、2019年度は年間53万本であり、2016年度からは約15万本増加している。
- 染色剤を溶かした水を吸い上げさせて染める方法では染まらなかったため、花を直接染液に浸す方法で染めている。蕾の状態でも開花後の日持ちには影響がなく、蕾の時点で染めた花卉と開花した状態で染めた花卉が混在するため時間の経過による色合いの変化を楽しむことができた。
- 藍染めコワニーによって販路拡大の手段を拡大し、他の色のコワニーとの組み合わせでの出荷、新たな使い方の提案、町のPRを通じた他業種とのコラボレーション等を推進することを通して認知度の向上とニーズの喚起を図り、生産量の増加と販売単価の向上に繋げることで、最終的には農家所得の向上を目指すというモデルを想定。

- 町内で藍染の染料を生産することはできないため、他町の農家や農協、民間企業を含めた多様なプレーヤーとのコラボレーションが必要。また、染色や生産に関わる技術開発では大学等の研究機関とも連携する。

#### 現在までの進捗状況（南賀）

- 今年度から第2期まち・ひと・しごと創生戦略が始まり、業務委託をしているコンサルティング会社がコンテストでの受賞を知って、話を進める提案を受けた。
- 町の事業に関わった大学の先生から、藍染の研究をしている別の先生の紹介を受けた。
- コンサルティング会社・大学・町の3者で共同研究契約を締結する予定。期間は今年度末までだが、他の品種の花を含めて来年度以降も継続して取り組む可能性はある。

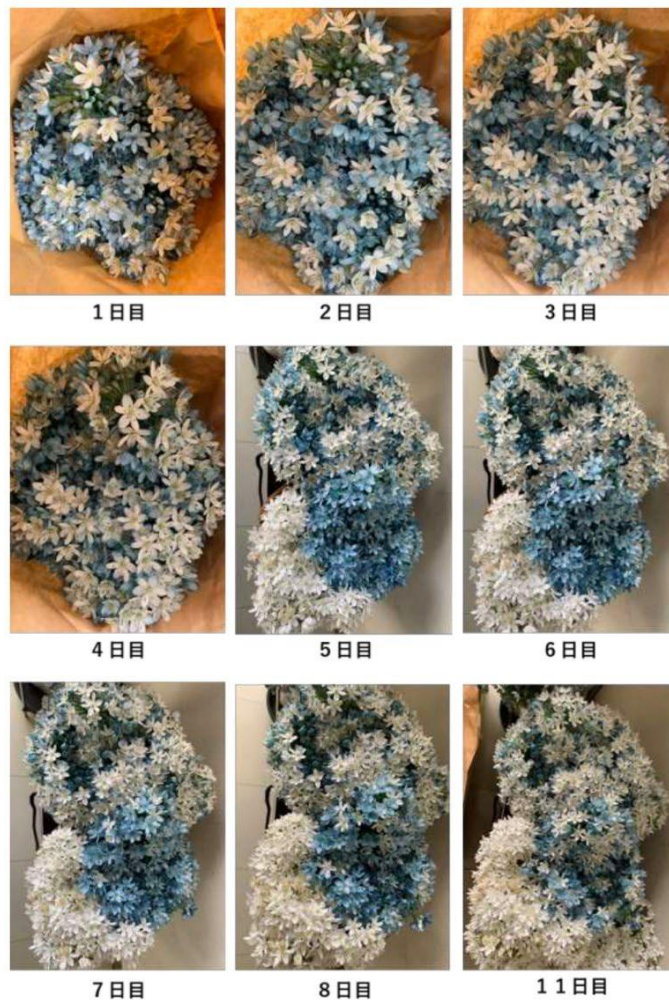


図 13 共同研究の成果の一部（藍染の染料調合実験の様子）

#### フォローアップチームからの質疑

- 生産量の増加と新たな担い手に関して
  - 年間生産量が15万本増加したのは、生産者の経営規模を大きくするために県・町・農協の三者でハウス等の設備投資に対する補助事業を行ったため。最も規模を拡大した生産者では面積が15アール増加した。増加分のうち12～13万本はそ

の生産者による。

- 今年は自然災害が少なかったため、コロナの影響も受けず生産量は増加に転じた。ただし、春先に需要のピークを迎えるフリージアやコワニーでは、卒業式・入学式などの中止によって影響が出るかもしれない。
- 現状、那賀町は、コワニーを市場に供給している生産地のなかでは最大規模であり、カスミソウとは異なる需要があるため生産すれば生産しただけ売れる状態になっている。
- 現在の生産者にも若手があり、手取り収入が増えるのであれば積極的に協力するというスタンス。生産者9～10人のうち3人がすでに関心を持っている。生産者の方々もコアメンバーとなって持続的に引っ張っていく形になると良い。
  - 新たな生産者としては、種を蒔いてから90日ほどで育てられ、ハウスなどの初期投資も必要ないことから初心者に適しているケイトウの生産を新たに始めた生産者が去年は3名、今年は5名いる。いずれも既存のケイトウ生産者が新規就農者向けに開いた説明会に参加して生産を始めた。ケイトウを入口として、いずれフリージアやコワニー生産のための設備投資を行い経営品目に組み込んでいくというのが現実的な広がり方だと考えている。
- 今後のスケジュールに関して
  - 民間企業の販路を通じたマーケティングと、大学での技術開発の実験を進めていく。
  - マーケティングに関しては、藍染めコワニーに興味を持っている大阪の花屋を通じて個人消費者と企業を対象としたテストマーケティングを1月以降に実施する予定。大阪の感染状況次第だが、花屋を那賀町に招いての産地見学ツアーも計画中。コンサルティング会社からもマーケティングに関するアドバイスを受けている。
  - 大阪の花屋は、個人向けの店舗の運営に加えて企業向けの卸や、花を用いたオフィスインテリアの提案なども行っている。
  - 最終的な藍染めコワニーの生産規模についてはまだ考えていない。一定以上の生産量を目指すのであればBtoBの販路を拡大することも必要となる。最終的な規模の想定は市場の反応を探りながらだが、通常の方法で生産した白色のコワニーを後から染めているので、需要が減少したとしても手を引いて白色のコワニーとして売ることができるため事業としてはロバストであると考えられる。
  - 大学の技術開発は、効率よく高い品質で染めることを目的としている。また、現在は実現できていない吸い上げによる染色の可能性についても研究する予定。直接花を染色するのは時間がかかる上、作業に専念する人材が必要となるため、吸い上げによる染色が可能になればリソースが削減できる。
- 共同研究の枠組みと各主体の役割、意識の擦り合わせに関して
  - 共同研究では、コンサルティング会社は販路の開拓を、大学は技術開発および特許取得等の法的な問題を、町は生産者からのサンプル提供に関する調整業務をメインに役割分担をしている。
  - 最終的なアウトプットとして、どの内容を特許申請するかについては未定である。

大学は染色技術で取得したいと考えているが、生産者の立場を踏まえると町としては藍染めコワニーそのものを専売特許にしたいので今後擦り合わせをする必要がある。

- 共同研究では主体間で最終的なインセンティブが異なるというケースが見受けられる。その意味でのミスコミュニケーションを防ぐツールとして提供されているワークシートなども参考にして、各主体が集まってリスクやベネフィットを改めて整理する機会を設けると良いのではないか。町としては、大学やコンサルティング会社の意向に引っ張られてしまうリスクに対する不安があったので、契約までに詰めておくべき事項を三者で共有するようにしたい。
- フォローアップ・アドバイスに関して
  - 環境省が推進しているローカル SDGs 四国をテストマーケティングや実証実験の場として活用することが考えられる。町として登録・参加することに拘らず、大学や生産者グループとして登録することもできる。この仕組みを活用して四国各県の県庁等に藍染めコワニーを置いてもらうといったことを通して認知度を高めていくことができる可能性もある。年内にはローカル SDGs 事業がスタートするので、12 月上旬に予定されている共同研究契約の締結ともタイミングが合致している。
  - 1月のテストマーケティング前後に進捗共有の機会を再度設けることを基本として、年度末に何らかのアウトプットをまとめる方向でフォローアップを実施する。

#### 2.7.4 今後のフォローアップの方針

- 本年度の共同研究の結果を徳島大学の記者発表を通じて広めるとともに、商品開発・市場開拓のための施策を検討する。

### 3 考察・まとめ

本事業では各チームのプロジェクトの進捗状況や課題が多岐にわたることから、各チームの状況に応じて、事業内容を検討しながら実施した。中長期的なプロジェクト運営のためのフォローアップを短期的に評価することは難しいものの、以下の観点で課題と考えられる。

- チーム体制の強化と連携・協力先の確保
  - 多くのチームメンバーは本職の勤務時間外でプロジェクトを担っていることから、アイデア実現や継続にあたっては、それぞれのメンバーが果たす役割の明確化やガバナンスの強化が求められるとともに、チーム外で連携・協力できる団体・個人などを有機的に繋げる必要がある。
  - 中長期的な運営のために法人化などが必要となるケースも見られるが、チームメンバーが必ずしも活動の事業化に関する知識や経験を有していないことから、適切な知見を有する専門家の紹介などの支援が求められる。
- 住民参加の仕掛けづくり
  - 多くのプロジェクトは地域住民の参加を前提としていて、もしくは目標に掲げており、それを可能にする仕組みや仕掛けを考えていくことが必要である。
  - プロジェクトによっては、単に住民を巻き込むというだけでなく、住民の意識を変容させ、住民が地域で主体的に活動するようになることを重要視している。そのため仕組みや仕掛けづくりが必要である。
- 資金調達のノウハウの提供
  - 寄付やクラウドファンディング、収益化などの多様な選択肢から各プロジェクトに適した方法を選択することが必要と考えられるが、資金調達の方法に関する知見が不足している。
- データ活用（継続的な収集・適切な分析）
  - 活動の効果（アウトプット・アウトカム・社会に与えるインパクトなど）やプロジェクトを取り巻く社会的状況を随時評価するため、多様なデータ（アンケートや聞き取り調査・統計データの活用などの質的・量的の両データ、記録映像なども含む）の継続的な収集およびRESASや統計ソフトなどを活用した適切な分析が必要である。
- プロジェクトの柔軟性
  - 場合によっては、地域課題の文脈や情勢等に応じたプロジェクト内容の変更や修正などが必要となるが、そのような状況においてもチームが効果的に活動を継続するためにも、予めプロジェクトの根幹となるコンセプトを明確にしたうえで、メンバー間や協力者との間で共通理解を構築しておくことが重要である。
- 広報活動



- 連携・協力先の確保や住民参加、資金調達といった活動推進にあたっての様々な課題を克服し、プロジェクトを軌道に乗せるためには、継続的な発信力が必要である。
  - まず、データの収集および分析によって明らかになった活動の成果を、正確かつ効果的な方法で可視化することが必要である。また、コンペティションへの出展やプレリリースでの発信、アプリケーションの公開、ソーシャルメディアを活用した自主的な情報発信、活動拠点となっている地域のローカルメディアとの連携などの多様な手段を適切に使い分けて公表することが求められる。
- ・ 継続的なフォローアップ
    - 今回は短期間でのチームの状況に応じた第一段階のフォローアップであったが、この経験から、民間のスタートアップと同じく、官と民の中間的位置づけのプロジェクト（コモンズ）についてもインキュベーター的機能を提供する新たなサービスが必要と考える。
    - その際、①企業的に通常の市場で育つ可能性のあるもの、②官にも民にも属さない中間項的なもの（コモンズ）、③アイデアは民間からのものでも行政が手がけてよいものの分類をしておく必要がある。
    - また、プロジェクトの進行状況の程度もフォローアップ方策に加味する必要がある。例えば、アイデアの精緻化などに取り組む①アイデア形成期、アイデアの実現に取り組む②アイデア実行期、そしてプロジェクトの安定的な継続、拡大、横展開などに取り組む③スケーリング期に分類することも必要。
    - 今回の対象の分類例を表10に示す。最終的な分類上の帰趨はそれぞれの今後の展開を見て判断したい。

表 10 継続的なフォローアップのための分類例

プロジェクト名	チーム名	自治体名	チームの分類			プロジェクトの進行程度		
			企業的に育つ可能性のあるもの	中間項的なもの	行政が手がけてよいもの	アイデア形成期	アイデア実行期	スケーリング期
酒屋のおばちゃんとするの支援と実践	加登屋酒店&しんきん地方創生サポーターズ	福島県	○				○	○
エアロバイクで仮想空間ライブマラソン!	中小企業政策研究会ビジネスモデルカフェ	秋田県	○			○		
藍染めと花のコラボレーションによる地域農業の活性化	徳島県地方創生局地域振興課	徳島県那賀町	○				○	
コロナに打ち克つ! 頑張る諏訪酒蔵のPR	諏訪市産業連携推進室	長野県		○		○		
WAKUWAKUの一とコンソーシアム	能登町×北陸財務局×興能信用金庫チーム	石川県能登町		○	○	○		
artのある街計画	TOMOSHIBI	鹿児島県指宿市		○			○	○
空き家が繋ぐ人と未来	古民家上手プロジェクトチーム	島根県松江市		○			○	○



